

第六十五回帝國議會
衆議院

原蠶種管理法案委員會會議錄(速記)第五回

付託議案

原蠶種管理法案(政府提出)

會議

昭和九年三月一日(木曜日)午後二時開議

出席委員 左ノ如シ

委員長 生田 和平君

理事 橫川 重次君 理事 永田 良吉君

理事 小山邦太郎君

青木 精一君 加藤 知正君

近藤壽市郎君 三善 信房君

助川啓四郎君 畑七右衛門君

戸井 嘉作君 百瀬 渡君

戸田 由美君

出席政府委員 左ノ如シ

農林參與官 松村 謙三君

農林省蠶絲局長 井野 碩哉君

本日ノ會議ニ上リタル議案 左ノ如シ

原蠶種管理法案(政府提出)

○生田委員長 原蠶種管理法案ノ委員會ヲ開キマス

○加藤委員 大臣ノ御出席ガナイト云フコトデアリマスカラ、大臣ニ對スル質問ハ後廻シニ致シマシテ、取敢ヘズ政府委員ニ御尋致シタイト思ヒマス、原蠶種管理計畫竝ニ其内容ヲ見マス、昭和十三年度カラ向フ十

箇年間ニ於テ、各府縣ノ原蠶種製造ニ關スル設備ハ完成スルヤウニ思ハレマスガ、此期間内ニ於キマシテ、各府縣ガ自主的ニ國產系品種ヲ以テ、國ノ豫定スル以上ニ統一シヨウト云フ場合ニ於テハ、國ハ原原種ノ配付ヲ各府縣ノ希望ニ應ジテ充當スルコトガ出來ルカドウカ、之ヲ御尋シタイト思ヒマス

○井野政府委員 原蠶種ノ強制管理ニ移リマスノハ、今加藤委員ノ御話ノ如ク、十三年度以後ニナルノデアリマスガ、ソレ以前ニ於キマシテ急激ニ原蠶種ノ強制管理ヲ行ハナイ爲ニ、年々國產系ノ原原種ノ配付數量ヲ殖シテ參リマス、隨テ府縣ト致シマシテ、今日ノ設備ヲ更ニ擴張致シマシテ、或ハ一府縣ニ於テ全額配付スルコト云フヤウナ場合ニ於キマシテモ、國ノ品種ヲ段々ト殖シテ參リマスカラ、其需要ニ或ル程度ハ應ジ得ルト云フ風ニ考ヘテ居リマス

○加藤委員 其或ル程度ト云フコトガ、ドウモ府縣トシテハ、洵ニ安心ノ出來ナイヤウナコトニナルト思ヒマス、例ヘバ十三年度カラ向フ十箇年間ニ於テ國ノ豫定通りニ

ヤッテ行カウト云フコトナラバ、ソレハ一向ニ差支ハナイ、併ナガラ其府縣ノ都合ニ依リ十年間ト云フノヲ、七年間トカ、或ハ五年間ト云フ工合ニ、各府縣ガ國產系品種ヲ以テ早く其府縣ダケノモノヲ統一致サウト云フコトニナリ、其年限ヲ短縮セントスル場合ニ、國ハ其府縣ノ希望ニ應ジ、其府縣ニ要スル原原種ノ全部ヲ供給セラレテ然ルベキコトデアル、然ルニソレガ或ル程度マデト云フコトデハ、府縣トシテモ安心シテ其計畫ヲ進メルコトガ出來ナイコトニナル、ソレハ決シテ本法實施ノ本旨デハナカラウト思フ、何トナレバ本法案ノ趣旨トスル所ハ一年デモ早く原蠶種統制ノ彼岸ニ到達シタイト云フ點ニ在ルト思フカラデアリマス、故ニ右申述ベマシタヤウナ府縣ガアッタスルナラバ其場合ニ於キマシテハ、國ハ其府縣ノ希望ニ應ジテ、ソレダケノ原原種ヲ供給スルヤウニシテ置クト云フコトガ、當然ノ措置デアルト思フノデアリマス、ソレヲ只今政府委員ノ御答辯デアルト、或ル程度マデト云フコトデアルカラ、折角ノ府縣ノ計畫モ此爲ニ遂行スルコトガ出來ナ

イデ先ヘ延バスヨリ外ニ方法ハナイコトニナルノデアルカラ、斯カル場合ニハ政府モ其府縣ノ希望ニ應ジテ原原種ノ配付ヲ爲シ得ルヤウニ今カラ考ヘテ置カル、コトガ當然デアルト思ヘマスノデ、此點ニ關シ今一應政府委員ノ御答辯ヲ得タイノデアリマス

○井野政府委員 先程加藤委員ノ御質問ハ十三年度迄ニト私ハ思ヒマシタカラ、サウ御答シタノデアリマスガ、十三年度後十箇年ノ府縣ノ計畫ヲ短縮致シマシテ、府縣ガ七箇年ニ完成致スト致シマシテモ、十三年度以後ニ於キマシテハ、國カラ配付シマス原原種ノ數量ハ、全額ノ數量ニナッテ居リマスカラ、隨テ府縣ガ如何様ニ年限ヲ繰上ゲマシテモ、唯補助費ノ問題ニ於テハ、其年度ニ其金ガ出ナイカモ知レマセヌケレドモ、計畫自體ニ對シテハ、國ハ十分ノ品種ヲ配付シ得ルモノト考ヘテ居リマス

○加藤委員 本法案第六條ニ規定シアル料金ノコトニ付テ御尋致シタイ、原原種及原種ノ料金ハ同額デアルカドウカ、又料金ハ一蛾當リヲ凡ソ幾何ニ豫定シテ居ラレルノ

デアルカ、之ヲ御尋シタイ、國カラシテ直接原原種ノ配付ヲ蠶種業者ガ受ケ得ルト云フコトハ、是ハ一種ノ特權ト見ナケレバナラスノデアルカラ、サウ云フヤウナ特權ヲ有ッテ居ル者ニ對スル配付ノ原原種ハ、其料金ガ外ノモノニ較ベマシテ、相當高クテモ宜イノデハナイカト思ハレルガ、此點ニ於テモ政府委員ノ御考ヲ伺ヒタイ

○井野政府委員 管理法第六條ニ依リマスル原原種ノ料金ニ付キマシテハ、是ハ勅令決定メル問題デゴザイマスルカラ、今此處ニ確定的ノコトハマダ申上兼ネルノデアリマスガ、大體ノ考方トシテハ、政府カラ府縣ニ配付スルモノ、或ハ自家用原蠶種製造者ニ之ヲ配付スルモノ、是等ノ料金ヲ或ル程度迄ニ區別ヲ設クベキモノデハナイカト云フ風ニ考ヘテ居リマス、ソレデ大體原原種ノ配付價格ヲ一蠶當リ三十錢位ニシタイト云フコトニ考ヘテ居リマス、ソレカラ原種ヲ蠶種製造家ニ配付致シマス、有償配付ノ價格ハ、是ハ各府縣ノ財政狀況ニ依リマシテ、色々相違モアルカト思ヒマスガ、出來ルナラバ成ベク其價格モ統一サセタイト云フ風ニ考ヘテ居リマス、之ヲ幾ラニスベキカハ、各府縣ノ財政狀態等ヲモウ少シ研究シテカラ決メタイト考ヘテ居リマス

○加藤委員 只今ノ政府委員ノ御答辯ニ依ルト、蠶種業者ガ直接受ケル所ノ原原種ノ料金ニハ別ニ差異ガナイヤウニ思ハレマス、所ガ昨日私ガ其生産費ハドノ位掛カルカト云フコトヲ伺ヒマス、八九十錢ノ見込デアルト云フコトデアリマシタガ、只今伺ヒマス三十錢ト云フコトデアル、是デハドウモ國ガ大變損ヲシテ配付スルコトニナルノデアルガ、是ハ蠶絲業ヲ保護スル意味カラ左様ナコトニ特ニセラル、ノデアルカドウカ

○井野政府委員 原蠶種國家管理ヲ致シマスコトハ、唯養蠶家ノ希望ニ應ジテ優良ナル品種ヲ配付スルコト云フニ止マラズ、國家ノ蠶絲業ノ見地カラ、國家自體ガ蠶種ノ統一及統制ヲ圖リタイト云フ見地ノ下ニ此事業ヲ行フノデゴザイマスカラ、國自體ガ要シマスル經費全額ヲ、府縣ナリ、蠶種製造業者カラ取ルト云フコトハ、却テ穩カデナイ、國家モ或ル部分ノ費用ノ負擔ハセザルヲ得ナイト云フヤウニ考ヘマシテ、大體一蠶當リ八九十錢掛カルモノデアリマスガ、國カラ有償配付ノ時ニハ三十錢位ガ適當ト考ヘマシテ、サウ云フ風ニ致シテ居ル次第デアリマス

○加藤委員 更ニ一蠶當リノ料金ニ付テ御尋致シマスガ、原原種モ原種モ同ジク三十錢位ノ割合デ配付セラレルヤウニ只今承リマシタガ、昨日ハ單ニ一蠶當リ幾ラト云フヤウナボンヤリシタコトニ付テ私モ御尋ヲシ、又其御答ガアッタヤウニ思ヒマスガ、此料金ニ差額ヲ設ケルコトニ付キマシテハ、今一應伺ヒタイノデアリマス、原原種ノ生産費ト原種ノ生産費トハドノ位ノ差ガアルヤウニ御見積デアルカ、ソレヲ伺ヒタイ

○井野政府委員 原原種ト原種トノ價格ヲ兩方共三十錢位ニスルトハ申サナイノデアリマス、即チ國ニ於テ製作シマス所ノ價格ヲ大體三十錢位ニシテ有償配付スル計畫ニナッテ居リマシテ、府縣ノ方デ作ル原種ノ價格ニ付キマシテハ、先程申上ゲマシタヤウニ、府縣ノ財政計畫等ニ依リマシテ、之ヲ如何様ニ定メマスカニ付テハ、尙ホ研究ヲシテ之ヲ決メタイ、隨テ原原種ガ三十錢デアリマスルカラ、無論ソレヨリハ安い價格ニ於テ原種ハ配付サレルコト、考ヘテ居ルノデアリマス、其點ハ昨日モ申上ゲマシタヤウニ、府縣ノ經常費トシテ約百萬圓ノ金ガ掛カルノデアリマスカラ、ソレヲ償ヒ得ル程度ニ於テ原種ノ價格ヲ決メテ行クト云フ風ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○加藤委員 原種ノ料金ハ府縣ニ於ケル特別ノ事情モ斟酌ノ上ニ定メルト云フコトデアリマシテ、今茲ニ明言シ難イト仰シヤルノモ御尤デアルガ、併シ苟モ本案ヲ制定スル以上ハ、國ガ配付スル原原種ハ生産費ガ大凡ドノ位掛カテ、又道府縣ガ製造家ニ配付スル原種ト云フモノハドノ位掛カルト云フヤウナ、其大凡ノ見積ト云フモノハアルコト、思ハレル、若シソレガアルナラバ御尋シタイ、隨テソレニ依ッテ府縣ノ配付スル料金ヲ定メラレルコト、思ヒマスカラ、ソレヲ參考ノ爲ニ承リタイト思ヒマス、若シサウ云フヤウナコトガナケレバソレデ宜シイノデアリマスガ、今一應政府委員ノ之ニ關スル御答辯ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○井野政府委員 各府縣ニ於キマシテ作リマス原種ノ製造費用ニ付キマシテハ、是ハ製造數量其他設備費等ノ關係ニ於キマシテ、各府縣非常ニ今日ニ於テハ區々デアリマス、或處ニ於テハ七十二三錢ト云フヤウナ處モアリマスレバ、十一錢、九錢位デ出來ル處モアルヤウナ譯デアリマシテ、吾々ノ方ノ今度ノ計畫ニ依リマシテ、府縣ガ約七割ノ原種ヲ配付スルモノトシマスレバ、其全體ノ經常費トシテ百萬圓カ、ル、ソレヲ配付數量ニ割リマス、一蠶約十錢前後ノ價格ニナリマス、併シ果シテ此價格ヲ以

テ配付致シマスカドウカハ、マダ決メ兼ねテ居ルト云フ次第デアリマス

○加藤委員 府縣ノ蠶業試驗場トカ、蠶種製造所ト云フモノハ、原原種ノ複製ヲスルコトガ出來ナイ規定ニナッテ居ルノデアリマスガ、實際問題ト致シマシテハ、政府ハドウ云フ方法ヲ以テ複製違反ヲ取締ルノデアリマスガ、ソレヲ伺ヒタイト思ヒマス、複製禁止ト云フコトガ廣行セラレルトセラレナイトニ依リマシテ、原蠶種管理ノ效果ガ左右セラル、ト云フコトハ、是ハ言フ迄モナイコトデアリマスカラ、政府ハ此點ニ付テ嚴重ナル取締ヲシナケレバナラヌト思ヒマスガ、現在ノ實情カラ申シマス、ソレハ中々容易ヂヤナイト思ヒマス、何故カト申シマス、今日ノ蠶種製造家ニハ自治検査ヲ許シテ居ル、自治検査ヲ許シテ居リマスカラ、特約組合等ノ關係カラ自由勝手ニ此法網ヲ潛ル穴ガ開イテ居ル、此開イテ居ル穴ヲ塞グニ非ザレバ、實際問題トシテハ複製嚴禁ト云ッテモ、中々其違反ヲ取締ルコトハ困難ト思フガ、之ニ對スル政府ノ御所見ハ如何デアリマスカ

○井野政府委員 原原種ノ複製ニ付キマシテハ固ヨリ原蠶種管理法ニ依リマシテ禁止テ居ルノデアリマス、即チ原原種ノ製造ハ

政府之ヲ行フト云フコトニ第三條決メテアリマス、府縣ハ其原原種ヲ基トシテ原種ヲ作り得ル權限ヲ有ッテ居ルダケデアリマスカラ、隨テ府縣ナリ或ハ自家用原蠶種製造者ガ原原種ヲ複製スルト云フコトニナリマスレバ、管理法違反トシテ十分取締ル、其取締ハ今日ノ各府縣ニ於ケル蠶業取締所ヲ以テ之ニ充テ、行キタイト云フ考デアリマス、尙ホ自治検査ニ付テ、今日ノ自治検査ヲ認メテ行クナラバ、複製違反ノ事柄ガ容易ニ行ハレ得ルト云フコトデアリマスガ、自治検査ニ付キマシテハ、各自治検査ヲ許シテ居ル者ニ付キマシテ、國家トシマシテハ個々の十分ノ監督ヲシテ居リマスカラ、隨テ其監督ヲ管理法ノ施行ト俟ッテ益、嚴重ニシテ參リマスレバ、複製違反ノ問題ハ起ラナイト信ジマス

○加藤委員 第九條第一項ノ許可ヲ受ケ得ベキ原蠶種製造者ノ許可標準ヲ伺ヒタイト思ヒマス、若シ中小ノ蠶種製造者ガ合同ノ形式ヲ以テ其許可條件ヲ滿シタモノガ所々ニ出來ルト云フコトニナリマシタ場合ニ、之ヲドウ云フ風ニ受理スルカ、其點ヲ一ツ御尋申上ゲタイ

○井野政府委員 此點ハ昨日小山委員ノ御質問ニ依リマシテ、私カラ御答辯申上ゲタ

點デゴザイマス、其許可ノ標準ヲ個々のニ舉ゲテ申上ゲタノデアリマスガ、モウ一度申上ゲル必要ガアリマスレバ、申上ゲテモ差支ナイノデアリマス

○加藤委員 私ハ昨日ツイ他ヘ行キマシテ、小山委員ノ質問ヲ聽漏シタノデスカラ、重複ノ點ヲ御尋致シタト思フノデアリマスガ、併ナガラ此點ハ一應、政府委員ニ於カレマシテモ、同一ノ御説明カモ知レマセヌガ、伺ッテ置キタイト思ヒマス

○井野政府委員 ソレデハ申上ゲマス、此自家用原蠶種製造ノ許可標準ハ命令事項デゴザイマシテ、マダ的確ノ事柄ヲ茲ニ定メテ居リマセヌガ、大體ノ立法計畫カラ其標準ヲ申上ゲマスルト、第一ガ適當ナル原種製造設備ヲ有スルコト、第二ガ適當ナル原種製造管理者ヲ置クコト、第三ガ最近三箇年間ニ於ケル各年ノ製造蠶種ノ成績優良ナルコト、第四ガ一年間ノ普通蠶種ノ製造額ガ約三十萬貫以上タルコト、第五ガ本法若クハ蠶絲業法ニ依リテ處罰ヲ受ケ、又ハ免許許可ヲ取消サレタル者ニアリテハ三箇年ヲ經過シタルコト、先ヅ大體此五ツノ點ヲ標準トシテ許可ヲシテ行キタイ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス、尙ホ御尋ノ、此標準以下ノ者ガ合同シテ、此設備ヲ有ッタ場合ニド

ウデアアルカト云フ點ニ付キマシテモ、其合同ガ或ハ一個ノ法人トシテノ形式ヲ有ツノデアルカ、或ハ其他ノ關係ニ於テ有ツノデアルカ、其他ノ事情ニ依リマシテ、此許可標準ニ合致スルヤウナ狀態デアリマスレバ、許可スル積リデ居リマス

○加藤委員 只今御答辯中ノ第二ノ適當ナル資格云々ト云フコトデアリマスガ、是ハ凡ソドノヤウナ資格ナンデスカ

○井野政府委員 第二ニハ適當ナル原種製造管理者ヲ置クノデス

○加藤委員 其適當ナル管理者ト云フノハ、ドノヤウナ資格ヲ有ッテ居ル者ヲ謂フノデアリマスカ

○井野政府委員 マダ其點マデ詳シク決メテ居リマセヌガ、大體相當ノ學識經驗ヲ有スル者ニシテ、或ハ學校等ノ標準ヲ設ケルカモ知レマセヌ

○加藤委員 今其點ニ付テ別ニ定ッテ居ラヌト云フコトデアレバ、何トモ申上ゲヤウモアリマセヌガ、此適當ナル管理者ト云フコトハ中々責任ガ重イト思フ、此點ニ付テハ政府當局ニ於カレマシテモ、能ク其管理者ノ資格ヲ御攻究ノ上ニ定メラレシコトヲ希望致シテ置キマス、ソレカラ昨日同僚諸君カラ御質問ニナッタコトデアリマスカラ、

私カラ改メテ御質問スル迄モナイト思ヒマスガ、併ナガラはハ極メテ重要ナ問題ト思ヒマスカラ、尙ホ重ネテ政府委員ノ御意見

ノ在ル所ヲ御尋シテ置キタイト思フノデアリマス、ソコデ日本中央蠶絲會カラノ答申

ニハ、此蠶種製造者ノ製造スル優良品種ハ國ニ於テ買上デラレタイ、斯ウ云フコトニ

相成ッテ居ルノデアリマス、ソレヲ今回ノ法律案ニハ全然ソレヲ無視シテ居ラレル、

是ハ昨日吾々ノ同僚諸君ノ御質問ニ對シテ、ソレノ政府當局ノ御答辯モアッタノデア

リマスガ、併ナガラはハ是非獎勵ノ意味ヲ以テ、頗ル高イ値ヲ以テ之ヲ買上ゲルヤウ

ニセラル、コトガ、即チ我國ノ品種ノ向上ヲ促ス最モ力強イモノニ相成ルダラウト思

フ、ノミナラズ吾々ノ考カラ言ヒマスト云フト、一ツノ獎勵金ヲ設ケマシテ、サウシ

テ非常ニ高ク買上ゲラレタ上ニ、更ニ其獎勵金ヲ與ヘル位ニシテハドウカト云フヤウ

ニモ考ヘテ居ル、尤モ國ガ十分其施設ヲヤツテ、品種ノ向上ヲ圖ル上ニ於テハ、國ニ全幅

ノ信賴ヲ拂ヘバ宜シイト云フ御見地デアルカモ知レマセヌガ、併ナガラ種類ノ向上ハ

是ハ國ニ委シテ置クヨリモ、實際利害關係ノアル所ノ當業者ガ熱心ニ之ヲ研究シテ、

國ト相俟ッテ研究ヲシタ方ガ、ドレダケ其效

果ガアルカ分ラナイ、ソレニハ矢張唯之ヲ擔上ゲルト云フヤウナコトデハイケナイ、又少イ價ヲ以テ買收スルト云フコトデモイ

ケナイ、最モ高イ所ノ費用ヲ以テ之ヲ買上ゲルノミナラズ、之ニ相當ノ獎勵金ヲ交付

スル、サウシテ國ト民間トガ相俟ッテ、種類ノ向上發展ヲ圖ルト云フコトニ非ザレバ、

本當ニ其目的ヲ達スルコトガ出來ナイト思ヒマス、何故ニ是ダケノ此重要ナ問題ヲ本

法ニ規定セラレナカッタカ、今一應政府當局ノ此點ニ關スル御意見ヲ伺ヒタイ

○井野政府委員 洵ニ御尤ナ御質問デゴザ

イマスガ、是ハ私共モ無論民間ノ優良品種ニ付キマシテハ、出來ルダケ研究モシテ貰

ヒ、又助長モシテ行キタイ、斯ウ考ヘテ居リマスガ、唯之ヲ法制ニ現シマセヌデシタ

ノハ、法律ニ書カナクとも、政府デ豫算ヲ以テシマスレバ買得ル問題デゴザイマスカ

ラ、法律ニ書カナカッタト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、昨年ノ衆議院提出法律案

ニハ強制買收ノ規定デゴザイマシタガ、尙ホソレヲ書カナカッタ理由モ昨日申上ゲタ

ノデアリマス、ソレガ即チ強制買收ト云フコトニナリマスルト、強制買收價格ノ問題

ニ付テモ、規定ノ上ニ於テモ、面倒ナコトモゴザイマスシ、實際ニ於テ造リマシタモ

ノヲ國ガ用ヒナケレバ、原蠶種管理ニナリマシタ後ニ價值ガ無クナリマスカラ、國家

トシテハ十分優良品種ヲ造リマシタモノ、其品種ガ蠶品種審査會ニ掛ケテ、優良ナリ

ト決定シタ曉ニ於テハ、出來ルダケノ豫算ヲ組ンデ、品種ノ買上ニ努メタイ、斯ウ云

フ風ニ考ヘテ居リマス

○加藤委員 新品種ヲ配付スル場合ニ於キ

マシテハ、第九條ノ許可ヲ得タル者ト、然ラザル者トガ、同時ニ之ヲ使用シ得ルヤウ

ニセラレタイト思ヒマスガ、此點ニ付テ政府委員ハドウ御考ヘデアルカ、之ヲ伺ヒタ

イ、道府縣カラ新品種ヲ配付スル場合ト、直接國カラ配付ヲ受ケタ當業者ノ新品種ヲ

配付スル場合トニ於キマシテハ、茲ニ一年速イ遲イノ相違ガアルヤウニ思ハレマス、

之ヲ同時ニ何卒配付スルヤウニ、各人ガ同時ニソレニ均霑スルヤウニセラレルト云フ

コトガ必要デアラウト思フ、此點ニ於ケル政府委員ノ御答辯ヲ伺ヒタイ

○井野政府委員 政府當局モ全ク同意見デ

ゴザイマシテ、ソレハ府縣ガ造リマスルモノト、自家用原蠶種製造者ガ造ルモノトガ、

違フ時期ニ出マスレバ、非常ニソコニ不公平ガ起ルノデアリマスカラ、省令ニ於テ其

點ハ同時ニ養蠶家ニ渡ルヤウニ吾々デハ規

定シタイト考ヘテ居リマス

○加藤委員 原原種ヲ道府縣ニ配付スルト

同時ニ、一面ニ其設備ノ完備致シタ蠶種業者ニ配付スルト云フコトハ、要スルニ種類

ノ更ニ向上ヲ促スバカリデナク、優良ナル所ノ普通蠶種ノ一般ノ養蠶業者ニ配付スル

コトニナリマシテ、是ハ洵ニ是レ以上妙味ヲ持ツタ方法ハ私ハナカラウト思フ、此趣旨

ヲ體シテ、本法ヲ規定セラレテ居ルト云フコトハ、洵ニ國家ノ蠶絲業ノ爲ニ幸慶ノ至

リデアルト私ハ考ヘル次第アリマス、併ナガラ又此一面ニ於キマシテハ全部政府ガ之

ヲ管理スルニアラザレバ、詰リ政府ノ手ニ於テ一般ニ普通蠶種ヲ配付スルト云フヤウナ

コトニシテ、直接蠶種業者ニ原蠶種ヲ配付スルト云フヤウナコトハ廢メタ方ガ統一上

宜シクハナイカト云フヤウナ意見ヲ有スル者モ少クナイノデアリマス、此點ニ於キマ

シテ政府當局ハ將來全部國カラ之ヲ配付シテ、蠶種業者ヘハ直接配付シナイヤウナコ

トニ致スト云フ考デアルカドウカ、其點モ豫メ參考ノ爲ニ御伺ヲ致シテ置キタイト思

フ

○井野政府委員 原原種ノ配付ヲ道府縣ニ

配付致シマスコトヲ原則トシテ、自家用原蠶種製造者ニ致シマスルコトハ、例外的ニ

此規定デハ認メテアルノデアリマスルガ、併シ私共ハ加藤委員ノ御説ト同ジク、之ヲ必シモ全部府縣ニ統一スル必要ヲ今ハ認メテ居リマセヌ、併シ將來此實蹟ヲ見マシテ、或ハ其方ガ非常ニ原蠶種管理上宜イト云フコトニデモナッテ參リマスレバ、サウ云フ風ニナラナイトモ限ラナイト思ヒマスガ、現在ニ於キマシテハ此計畫ヲ以チマシテ、十分ニ原蠶種管理ノ目的ヲ達シ得ルモノト考ヘテ居リマス

○加藤委員 先刻申上ゲマシタ自治検査ノコトニ付キマシテ今一應御尋致シマスガ、蠶絲業法施行規則第五十條ノ所謂自治検査制度ナルモノハ、行ク／＼ハ之ヲ撤廢セラシ、御意思デアルカドウカ、此自治検査制度ノ撤廢ト云フコトガ、原蠶種管理實施ニ當リマシテ、其效果ヲ發揮スル上ニ缺クコトノ出來ナイ要件デアルト考ヘテ居ル當業者モ少クナイヤウデアリマスカラ、此點ニ於テ今一應政府當局ノ明快ナル御答辯ヲ戴キタイト思フノデアリマス

○井野政府委員 蠶絲業法十一條ノ二ニ自治検査ノ規定ガアルノデアリマスルガ、此自治検査ニ付キマシテハ今日マデノ實蹟ニ鑑ミマシテ、政府當局トシテハ之ヲ現在廢止スル意思ハ有ッテ居リマセヌ、隨テ原蠶種

管理法ガ實施セラレマシテモ、直チニ之ヲ廢止スルト云フ風ニハ考ヘテ居リマセヌガ、唯昨日モ小山委員カラノ御質問モアリマシタヤウニ、是等ニ付テ色々ノ議論ヲスル者モアリ、又其缺點等ニ付テ色々論ズル者モアルノデアリマスルカラ、政府トシマシテモ無論是等ノ實蹟ニ付テハ種々調査モシテ行キタイ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス

○加藤委員 昨日私竝ニ同僚諸君カラモ質問ガアリマシタノデアリマスガ、尙ホ質問漏ニナッテ居ル點ヲ御尋シタイト思フコトハ、此昭和十三年度カラ向フ十箇年間ニ補助セラル、所ノ府縣設備費、ソレニ對シマシテ同僚諸君カラ製造費ニ補助セラル、カドウカト云フ質問ガアッタノデアリマスガ、人件費ニ對スル所ノ補助金ノ交付ト云フコトニ付テハ、將來其様ナ點ニ付テ何トカセラルルト云フヤウナ、政府當局ニ御意見ガアルカドウカ、是モ此際併セテ御尋致シテ置キタイト思フノデアリマス

○井野政府委員 道府縣ノ原蠶種設備ニ對シマスル補助金ハ豫算ノ上ニ組ンデゴザイマスガ、人件費ニ對シマスル補助金ハ豫算ノ上ニハ載ッテ居リマセヌ、ソレハ大體昨日モ申シマシタヤウニ、府縣ガ有償配付ヲ致シマ

スル其收入ニ依リマシテ、大體經常費ヲ賄ヒ得ルト考ヘテ居リマスノデ、今日デハ其補助ニ付テハ考ヘテ居リマセヌガ、併シ實施ノ模様ヲ見マシテ、又府縣ノ財政ノ點ヲ考慮致シマシテ、將來國家財政上其餘裕ガ出來レバ、或ハサウ云フ點モ考ヘルカト考ヘテ居リマスガ、今日デハ其點ハ考ヘテ居ラナイ次第デアリマス

○加藤委員 今一ツ御尋致シマス、本員ノ要求ニ依リマシテ御配付ニナリマシタ蠶業試驗場配付原蠶種及其交雜種ノ調査成績ト云フモノヲ拜見致シマス云フト、原蠶種ノ方ニ於テ春蠶ガ十種、夏秋蠶ガ三種、交雜種ノ方デ春蠶ガ九種、夏秋蠶ガ二種、斯ウアリマスガ、是ガ即チ本法實施ノ曉ニ於キマシテ配付セラレル所ノ優良品種デア

○井野政府委員 御手許ニ配付致シマシタ其調査成績ハ、現在國產系ト致シマシテ民間ニ出テ居リマス原種ノ成績デゴザイマシテ、恐ラク十三年度マデノ任意配付ノ場合ニ於キマシテハ、之ヲ基礎ト致シマシテ、或ハ加へ、或ハ削り、段々ト國產系ノ品種

ヲ殖ヤシテ行クコト、存ジマスガ、之ヲ強制管理ニ移シマス場合ノ品種ト致シマシテハ、法律ニモゴザイマスヤウニ、蠶品種審査會ニ於テ之ヲ決定スルコトニナッテ居リマス、其決定ヲ俟チマシテ國家ノ配付品種ト云フコトニ定メラレルノデアリマス

○加藤委員 私ノ質問ハ之ヲ以テ打切ト致シマス

○近藤委員 私ハ昨日カラ同僚ノ質問、當局ノ之ニ對スル御答辯ヲ拜聽致シマシテ、此案ニ付テハ此上伺フベキ事ハナイト云ウテモ宜イノデアリマスルケレドモ、大體ニ於テハ如何ニモ同僚ノ問フタコトヲ蒸返スヤウナコトニナリマスケレドモガ、昨日モ助川君カラ大臣ニ向ッテ蠶絲對策ニ對スル重點ヲ擧ゲラレテ御意見モアツタリ、或ハ大臣ノ御答モアリマシテ、稍々大臣ハ此案バカリデハナク、蠶絲全體ニ對スル救済案ノ幾分カノ御意向ハ漏サレテ居ッタノデアリマス、是等ニ付テモ尙ホ細カニ大臣ニハッキリシタ御答辯ヲ私共ハ得タカッタノデアリマス、昨日ハ私非常ニ風ヲ引イテ居リマシテ、聲モ立チマセヌデシタカラ、言フコトガ出來マセヌデシタ、本日伺ハント致シマスレバ大臣ハ本日ハ御出デガナイヤウデアリマス、大臣ニ尙ホ私ハカキリシタ確定のノ救

濟方法ニ付テ昨日ノ御答辯ヨリ以上ノ進シ
ダ所ヲ伺ヒタイノデアリマスケレドモ、ソ
レハ大臣ノ御出席ノ時ト致シ、又大臣ガ此
儘御出席ガナイト致シマスレバ、ソレニ止
メテ置キマシテモ已ムヲ得ナイコトデアリ
マスガ、抑、此蠶絲對策ニ付キマシテハ、昨日
モ御答辯ニナッタヤウニ、今日多種多様ニ互
テ居ルノデアッテ、唯農林大臣一人ノ御意見
ノミデ、一朝一夕ニ蠶絲對策ヲ斯ノ如キ方
法デ進ムト云フコトハ、誰シモ、大臣バカリ
デハナク言ヘル議論デハナイノデアリマス、

ノ方ハ救済セナンダデハナイカ、サウ云フ
コトデハ、幾ラ法ハ良イ法ヲ設ケテ置イテ
モ、良イ統制案ヲ定メテ置イテモ、ヤルベ
キ人ガヤラナクッタラ出來ナイ、デアリマ
スカラ是等ニ付テ先ヅ御注意相成ッテ、一ツ
眞劍味ヲ以テ蠶絲家専門家總掛リデヤッテ
貰フト云フコトガ大事デ、之ヲ希望トシテ
述ベテ置キマス

ソレカラ大體ノ蠶絲對策ニ付テ、本案ノ
ミナラズ昨日助川君ノ大臣ニ問ハレタト同
ジヤウナ意味ニ於テ、私ハ先以テ比處ニ御
出席ノ蠶絲ヲ専門トシテ立ッテ居ラレル所
ノ局長ノ御意見ヲ——國策トシテ責任ハナ
イカモ存ジマセヌガ、之ヲ伺ッテ置ク要ガ
ルト思ヒマス、大體ニ於テ先ヅ此議會中ニ
提案ナサラントスル御意向モ大臣ニ依ッテ
承リマシタケレドモ、此提案云々ハ大臣ヨ
リ外ニハ局長トシテ述ベラレルコトデハア
リマスマイケレドモ、將來ニ於テ蠶絲對策
ハ、生絲ノ販賣統制、或ハ國內獎勵ナリ、
或ハ米國ニ向フ宣傳ナリ、養蠶家ニ對スル
獎勵ノ方針トカ云フコトガ、多岐多様ニ
互ッテハ居リマスケレドモ、局長トシテノ餘
リ細カニ私ハ長ク時間ヲ要セヨトハ申シマ
セヌケレドモ、大臣ニナッタ積リデ、大臣ト
同ジヤウナ意思ヲ以テ背負ッテ立タレルト

云フ局長ノ御意見ヲ私ハ先以テ承ッテ、ソレ
カラ細カナ事ニ互ラウト思ヒマス
○井野政府委員 蠶絲局長ト致シマシテ、
蠶絲業ニ對シマスル考方ヲ述ベロト云フ御
話デアリマスルカラ、大體ノコトヲ申上ゲ
マスガ、私就任致シマシテカラ、大臣カラ
ノ色々御命令デ、蠶絲ニ對スル根本對策ヲ
何カ立デ、見ロト云フ御話デアリマシタ、
極メテマダ其知識ガ乏シイノデアリマス
ガ、局員一同ノ力ヲ借りマシテ、一應我國
ノ今日ノ蠶絲業ノ情勢ニ鑑ミマシテ立テマ
シタモノガ、昨日大臣ガ御話ニナリマシタ
ツノ三大基調ト云フモノデアリマス、ソレ
ハ即チ從來ハ昨日モ助川君ノ御話ノ通り、
増産一途ニ進ンデ參リマシタ我國蠶絲業
モ、今日ニ於キマシテハ人絹進出、或ハ亞米
利加ノ經濟事情ノ變革ト云フコトニ依リマ
シテ、其儘デ増産一途ニ進ムコトハ非常ニ
面白クナイ、寧ろ是等ノ經濟事情ノ變遷ニ
對應シテ、我國ノ蠶絲業トシテ考フベキコ
トハ、生産費ノ低減ト生産及販賣ノ統制、
需要ノ擴張、此三ツヲ三大基調ニスベキデ
アル、昨日モ大臣ガ御話ノヤウニ、我國ノ蠶
絲業ハ生産カラ販賣ニ互リマシテ、非常ニ
複雑ナル機構ヲ有ッテ居ルノデアリマスカ
ラ、一ツノ政策ヲ以テ總テ解決スルト云

フコトハ、非常ニ困難ナ事情デゴザイマスル
ノデ、此三ツノ精神ヲ基調ト致シマシテ、茲
ニ一ツノ根本對策ヲ立デ、見タイト思ヒマ
シテ、大體ノ計畫ヲ立テヤウナ譯デアリ
マス、其一ツハ蠶絲業ノ根幹デゴザイマス
原蠶種ノ國家管理、是ガ只今御協賛ヲ仰イ
デ居リマスル法律案ニ依リマシテ、御承知
ノ如キ計畫ノ下ニ、兎モ角モ我國ノ蠶絲業
ノ根幹デアル原種ヲ國家ガ管理スルコトニ
依ッテ、優良且ツ低廉ナル品種ノ普及ヲ見デ、
生産費ヲ低下シ、場合ニ依ッテハ生産ノ統
制ヲモ行ヒ得ルト云フコトヲ企テタ次第
デアリマスガ、其他或ハ蠶繭處理ノ問題ト致
シマシテ、乾繭取引ノ普及等ニ付キマシテ
モ、本年度豫算ヲ要シマスモノヲ更ニ要求
致シマシテ繼續セシメ、又亞米利加ノ市場
ニノミ今後ノ日本ノ生絲ト云フモノハ頼ル
ベキモノデハナイ、寧ろ國內或ハ新販路ニ
於テ新規ノ用途ニ蠶繭類ノ利用ヲ考フベキ
デアルト云フ意味カラ、之ニ關シマスル研
究費ヲ要求致シマシテ、是ハ此度追加豫算
トシテ計上セラレマシタ經費ノ中ニ、多少
ノ經費ヲ計上シテ居ルヤウナ次第デゴザイ
マス、ソレ等モ一ツノ根本對策トシテハ、
私共ハ大キナ研究問題デアルト云フ風ニ考
ヘテ居リマス、又是等ノ仕事ヲ統一のニ指

ハ農林省ノ中専門デ進ンデ居ル蠶絲局——
蠶絲局ニハ局長ト云ヒ、課長ト云ヒ、技師ト
云ヒ、専門家ガ居ラレル、唯机ノ上ノ議論バ
カリデハナク、大臣ニ斯様ナコトヲ以テ進
ムト云フ數字的バカリデハナク、本當ニ眞
劍味ヲ以テ臨ムノデナケレバ、蠶絲業界ヲ
救フコトハ出來ナイト思フノデアリマス、
例ヘバ一例ヲ舉ゲマスレバ、昨年吾々ガ
繭ノ問題ニ付テモ、乾繭獎勵ノ爲ニ多額
ナ費用ヲ豫算デ組ンデ置イタノニ、幸ニ
シテ春繭ガ救済獎勵ヲ致サズトモ濟ン
ダ、夏繭モ濟ンダ、晩秋ニ至ッテ將ニ危イ
ト云フ所デ、其機ヲ失ウテ、其豫算ノ金額
ノアルノニモ拘ラズ、局長或ハ蠶絲ニ關係

ノ方ハ救済セナンダデハナイカ、サウ云フ
コトデハ、幾ラ法ハ良イ法ヲ設ケテ置イテ
モ、良イ統制案ヲ定メテ置イテモ、ヤルベ
キ人ガヤラナクッタラ出來ナイ、デアリマ
スカラ是等ニ付テ先ヅ御注意相成ッテ、一ツ
眞劍味ヲ以テ蠶絲家専門家總掛リデヤッテ
貰フト云フコトガ大事デ、之ヲ希望トシテ
述ベテ置キマス

ソレカラ大體ノ蠶絲對策ニ付テ、本案ノ
ミナラズ昨日助川君ノ大臣ニ問ハレタト同
ジヤウナ意味ニ於テ、私ハ先以テ比處ニ御
出席ノ蠶絲ヲ専門トシテ立ッテ居ラレル所
ノ局長ノ御意見ヲ——國策トシテ責任ハナ
イカモ存ジマセヌガ、之ヲ伺ッテ置ク要ガ
ルト思ヒマス、大體ニ於テ先ヅ此議會中ニ
提案ナサラントスル御意向モ大臣ニ依ッテ
承リマシタケレドモ、此提案云々ハ大臣ヨ
リ外ニハ局長トシテ述ベラレルコトデハア
リマスマイケレドモ、將來ニ於テ蠶絲對策
ハ、生絲ノ販賣統制、或ハ國內獎勵ナリ、
或ハ米國ニ向フ宣傳ナリ、養蠶家ニ對スル
獎勵ノ方針トカ云フコトガ、多岐多様ニ
互ッテハ居リマスケレドモ、局長トシテノ餘
リ細カニ私ハ長ク時間ヲ要セヨトハ申シマ
セヌケレドモ、大臣ニナッタ積リデ、大臣ト
同ジヤウナ意思ヲ以テ背負ッテ立タレルト

云フ局長ノ御意見ヲ私ハ先以テ承ッテ、ソレ
カラ細カナ事ニ互ラウト思ヒマス
○井野政府委員 蠶絲局長ト致シマシテ、
蠶絲業ニ對シマスル考方ヲ述ベロト云フ御
話デアリマスルカラ、大體ノコトヲ申上ゲ
マスガ、私就任致シマシテカラ、大臣カラ
ノ色々御命令デ、蠶絲ニ對スル根本對策ヲ
何カ立デ、見ロト云フ御話デアリマシタ、
極メテマダ其知識ガ乏シイノデアリマス
ガ、局員一同ノ力ヲ借りマシテ、一應我國
ノ今日ノ蠶絲業ノ情勢ニ鑑ミマシテ立テマ
シタモノガ、昨日大臣ガ御話ニナリマシタ
ツノ三大基調ト云フモノデアリマス、ソレ
ハ即チ從來ハ昨日モ助川君ノ御話ノ通り、
増産一途ニ進ンデ參リマシタ我國蠶絲業
モ、今日ニ於キマシテハ人絹進出、或ハ亞米
利加ノ經濟事情ノ變革ト云フコトニ依リマ
シテ、其儘デ増産一途ニ進ムコトハ非常ニ
面白クナイ、寧ろ是等ノ經濟事情ノ變遷ニ
對應シテ、我國ノ蠶絲業トシテ考フベキコ
トハ、生産費ノ低減ト生産及販賣ノ統制、
需要ノ擴張、此三ツヲ三大基調ニスベキデ
アル、昨日モ大臣ガ御話ノヤウニ、我國ノ蠶
絲業ハ生産カラ販賣ニ互リマシテ、非常ニ
複雑ナル機構ヲ有ッテ居ルノデアリマスカ
ラ、一ツノ政策ヲ以テ總テ解決スルト云

フコトハ、非常ニ困難ナ事情デゴザイマスル
ノデ、此三ツノ精神ヲ基調ト致シマシテ、茲
ニ一ツノ根本對策ヲ立デ、見タイト思ヒマ
シテ、大體ノ計畫ヲ立テヤウナ譯デアリ
マス、其一ツハ蠶絲業ノ根幹デゴザイマス
原蠶種ノ國家管理、是ガ只今御協賛ヲ仰イ
デ居リマスル法律案ニ依リマシテ、御承知
ノ如キ計畫ノ下ニ、兎モ角モ我國ノ蠶絲業
ノ根幹デアル原種ヲ國家ガ管理スルコトニ
依ッテ、優良且ツ低廉ナル品種ノ普及ヲ見デ、
生産費ヲ低下シ、場合ニ依ッテハ生産ノ統
制ヲモ行ヒ得ルト云フコトヲ企テタ次第
デアリマスガ、其他或ハ蠶繭處理ノ問題ト致
シマシテ、乾繭取引ノ普及等ニ付キマシテ
モ、本年度豫算ヲ要シマスモノヲ更ニ要求
致シマシテ繼續セシメ、又亞米利加ノ市場
ニノミ今後ノ日本ノ生絲ト云フモノハ頼ル
ベキモノデハナイ、寧ろ國內或ハ新販路ニ
於テ新規ノ用途ニ蠶繭類ノ利用ヲ考フベキ
デアルト云フ意味カラ、之ニ關シマスル研
究費ヲ要求致シマシテ、是ハ此度追加豫算
トシテ計上セラレマシタ經費ノ中ニ、多少
ノ經費ヲ計上シテ居ルヤウナ次第デゴザイ
マス、ソレ等モ一ツノ根本對策トシテハ、
私共ハ大キナ研究問題デアルト云フ風ニ考
ヘテ居リマス、又是等ノ仕事ヲ統一のニ指

導シ、サウシテ將來ノ我國ノ生産統制ヲ完全ナラシムル爲ニハ、養蠶實行組合ト云フモノヲ今後ハ益々發達セシメテ行ク必要ガアル、ソレニハ各團體ナリ業者ノ要望ガアリマス通りニ、指導員ヲ設置致シマシテ、サウシテ養蠶業ノ統制ヲ圖ッテ行クト云フコトノ必要ヲ認メマシテ、是モ追加豫算ニ若干ノ經費ヲ計上シテ、大體ノ目的ヲ達シ得ルヤウニシタヤウナ次第デアリマシテ、

テハ相當ノ力ヲ盡シタイ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、大要ヲ申上ゲマス

所感ノ一端ヲ述ベテ、私ハ之ヲ希望シテ置ク次第デアリマス、ソレカラハ原蠶種ニ對シテハコンナ細カナ事ヲ伺フノハ如何カト思ヒマスケレドモ、序デアリマスカラ承リマス、内地需要ノ新用途ヲ擴張スル、或ハ米國ノ宣傳トカ云フコトモ非常ニ御努力

「ロープ」代用トシテ生絲ヲ使フト云フ問題ハ、最近私共モ聞イテ居リマシタ、現ニ海軍省ニ於キマシテモ水雷豫防等ノ網ノ綱、又遞信省ニ於キマシテハ救命艇等ノ網ニ用ヒタイト云フノデ、政府所有生絲ノ讓與ノ申請ガゴザイマシタ、是等ハ將來若モソレガ良イト云フコトガ決リマスレバ、非常ニ結構ナコト、思ヒマシテ、之ヲ無償讓與致シマシタ、目下試験研究中デゴザイマス、其中ニ成績ガ分ルコト、考ヘテ居リマス

尙ホ此外ニ販賣ノ統制ト致シマシテハ、輸出生絲販賣統制調査會ヲ設ケマシテ、販賣統制ニ關シマスル諸案ヲ研究シ、新聞紙上デ御承知ノ如キ特別委員會ノ決議ヲ經マシテ、之ニ關スル成案ヲ得マスレバ、昨日モ大臣カラ御話ノヤウニ、今議會ニモ提出ヲシタイト云フ意嚮ヲ有ッテ居リマス、其他需要ノ擴張ニ付キマシテハ、政府ガ有ッテ居リマスル買収生絲ヲ以チマシテ、國外ハ勿論、國內ニ於キマスル各種ノ新規用途ニ向ッテ研究調査ヲセシメ、尙ホ有償配付モ致ス、是ハ各府縣等ノ當局者トモ能ク連絡ヲ取りマシテ、從來ノ消費領域以外ニ於キマシテ、此生絲ノ消費ヲ増大シテ行クト云フ方向ニ向ッテハ、今マデモ相當ニ力ヲ盡シテ參リマシタガ、今後ハ極力之ニ力ヲ盡シタイ、即チ國內ノ需要増進ト云フコトニ向ッ

○近藤委員 局長ノ御答辯ハ、私ノ豫想通り當然サウデブラウト思フ所ヲ御答ニナツタ、是ハ今日モウ議論ノ餘地ハナイ、誰シモ吾各組合、當業者ト雖モ、今仰セノ通りニ考ヘテ居リマス、其通りデアリマスケレドモ、如何ニ農林大臣ト雖モ千手觀音デハナイ、何デモ能ク知ッテ居ル、何デモ斷行出來ルト云フモノデハナイノダカラ、蠶絲對策ハ專門家ノ蠶絲局ニ於テ局長以下ノ方々ガ一致團結シテ、非常ナル努力ヲ以テ大臣ヲシテ實行セシメルト云フ力ガナカッタ——蠶絲局ガ能力ガ足りナンダナラ、如何ニ吾々ガ跪イテ見テモ、如何ニ吾々ガ蠶絲對策ニ向ッテ救済セヨト云フコトヲ叫ンデ見テモ、私ハ行ハレルモノデハナイト思フ、ソレデ私ハ今局長ニ皮肉ノヤウデアリマスケレドモ、伺ッタノデアリマス、將來モ能ク一ツ此事ニ付テハ極力局長以下局ニ於テ案ヲ立テ、策ヲ立テル位デナケレバナラス、大臣ハ此政策ヲ行ハシムベキ責任コソアレ、之ヲ旨ク行フヤウニスルノハ局デナケレバ出來ナイト思ヒマスカラ、私ヨリ失禮ナガラ

「マニラ」麻、外國カラ輸入シテ來ル所ノ麻ノ代用ニ生絲ヲ使フト云フ、是ハ一寸無謀ノヤウナ話デアリマスケレドモ、私共ノ手許ヘ一ツノ會社ノ定款マデ添ヘタモノヲ參考書トシテ送ッテ來タ者モアリマス、成程ソレヲ能ク見マス、是モ一理アルヤウデアリマスガ、但シ絲價ノ高低ニ依ッテ是等ハ海外輸入ノ麻ヲ防グコトガ出來ルカ出來ナイカト云フコトハ、一朝一夕ニ論ズベキモノデハナイノデアリマス、是等ニ付テハ蠶絲局ニ於テハ御調査ナサツタコトガアリマスカ、此「ロープ」ノ麻代用——海外ヨリ輸入シテ來ル所ノ麻ヲ防イデ、サウシテ漁業者、又ハ總テ工業用ニ用ヒル所ノ麻綱ニ代用スベキ用途ノ方法ナドヲ御研究ナサツタコトハナイカドウカ、ソレヲアルナラバ參考ニ承リタイ

○近藤委員 試驗中デマダ細カナ報告ガ出來ナイト云ヘバ已ムヲ得ナイノデアリマスガ、之ヲ既ニ試驗シタ人ハ、事實カ或ハ實行ノ出來ルモノカ出來ナイモノカ知ラナイケレドモ、數字ニ現シテ、海外ヨリ輸入シテ來ルモノニ對シテモ、滯貨生絲ノ處分案ト云フノデ、之ヲ大口ニ處分ガ出來ルト斷言ヲシテ居ルヤウナ調査サヘモ、一面ニハ出來テ居ルノデアリマス、此國民ノ中デ何等機關モ備ヘテ居ルモノデモナイ、團體デモナイ、其職ニ在ルモノデモナイ者サヘモ此位ニヤッテ居ルノデアリマスルカラ、況ヤ政府ニ於テハ進ンデ是等ハ能ク調査シテ見ル、調査中デアルト云フ常套語デナク、熱心ニ晝夜兼行デ——一體ハ議會開會勞頭ニ之ヲ誇トシテ、斯ウ云フ調査ガ出來

上ツタ言ウテ、茲ニ示シテ下サルノガ至當デアラウト思フカラ、之ヲ願フテ置ク次第デアリマス、ソレカラ本案ノ原蠶種ノコトニ付キマシテ、昨日畑君カラカ御尋ガアッタヤウデアリマスガ、此管理統制法ニ依ッテ、必ズ失敗ナク行ケルト云フ局長ノ御言葉デアリマシタ、成程原原種ハ失敗ナク國ヨリ之ヲ出シテモ、原種ガ各府縣ニ渡リ、或ハ製造業者ニ渡ル間ニ非常ナル病毒ヲ發生セシムルコトガナイトモ限ラヌト思ヒマス、唯是迄デモ、成程國家ノ管理制度デハナイケレドモガ、縣ニ依ッテハ非常ニ進ンダ縣モ私ハアルト思フ、此原蠶種ノ國家管理法ヲ制定シタト同ジヤウナコトヲヤッテ居ル縣モ、私ハアルト言ッデモ差支ナイト思フ、其位ノ處デモ、時ニハ其種紙ニ非常ナル病毒ヲ發シタガ、併シ是等ハ假ニ縣デアリマスレバ、縣會ナドニ報告スルノニ、縣當局ガ非常ニ——縣立デヤッテ居ッタ所ノ蠶種ガ非常ニ惡クナッタト、斯ウ云フコトハ隠シタイノデアリマスカラ、暗カラ暗ヘ、祕密ニ之ヲ葬ッテ、當業者ニ泣キヲ入レテ、當業者ノ良イ物ヲ一夜ノ中ニ縣立ノ蠶種用ノモノトスリ換ヘルト云フヤウナコトガ現レテ、私共ハ之ヲ耳ニシタコトガ度々アルノデアリマス、サウ云フコトヲ存ジテ居リ

マスルカラ、斯ノ如キ管理法ガ出マシテモ、矢張其當局ガ責任ヲ有ッテ居リマスカラ、局長ガ昨日御答ノ如ク、國ノ原原種ニハ左様ナコトハアル筈ハアリマスマイケレドモ、原種及製造業者ニ渡ル迄ニハ、此病毒蔓延ノ虞ガナイトモ限ラヌ、サウ云フ時ニ一戸ヤ二戸ノ養蠶家ノ失策ナラバソレデ宜シイガ、マルデ一町村、一團體ト云フモノガ、殆ド全滅ニ及ビ、一方ハ養蠶ガ豐作デアリ、一方ハ不作デ、ソレガ爲ニ昨日畑君モ言ハレタ如ク、高イ肥料ヲ施シ、サウシテ勞力ヲ以テ培ッタ桑ヲ喰ハシテ、サウシテ將ニ上簇ト云フ時ニ全部ガヤラレテシマフト云フヤウナ不作ノ時ニ、此蠶種其モノガ惡カッタト云フコトニ至ッタナラバ、何トカ補償スベキ方法ガ設ケテナケレバ、實際ノ上カラ見マシテ、餘リソレハ殘酷デハナイカ、サウ云フ時ニハ臨機ノ處置デ何トカ救済ノ途ガナイモノカ、豫メ斯ウ云フ救済ノ御考ハナイカ、昨日ノ畑君ノヲ繰返スヤウデアリマスケレドモ、尙ホ私ハ此前例ヲ申上ゲテ御問スル次第デアリマス

○井野政府委員 病毒ニ依リマスル養蠶家ノ遺作ニ付キマシテハ、是ハ原蠶種國家管理ニ俟ツ迄モナク、現在ニ於キマシテモ、蠶絲業法ノ規定ニ依リマシテ十分ニ取締ラシテ、之ヲ防イデ居ルノデアリマスガ、原蠶種國家管理ニナッタガ爲ニ、其責任ヲ國ニ於テ負フカドウカト、斯ウ云フ御質問ノヤウデアリマス、昨日モ申上ゲタヤウニ、原原種自體非常ニ其品質ニ缺陷ガゴザイマシタ爲ニ、違作ガ起ッタ場合ハ、是ハ國トシテ勿論責任ヲ有タナケレバナリマセヌガ、只今御述ベノ如ク、今迄ノ過去ニ於キマシテ、全然サウ云フ事ハナカッタノデゴザイマスカラ、今後モサウ云フ事ハ起リ得ナイト、サウ云フ風ニ考ヘテ居リマス、縣ノ作リマシタ原種ニ、或ハソレヲ元トシマシタ所ノ普通蠶種ニ、病毒ガ發生シタ場合ニ、ソレヲ何等カ救済シタラドウカト云フ問題ハ、是ハ原蠶種國家管理ノ問題トハ別ノ問題デゴザイマシテ、其事情等ヲ能ク考慮シテ、將來國ニ於テ適當ニ處シテ行クベキ問題デアラウト思ヒマス

○近藤委員 餘リ私ノ杞憂ニ過ギタカハ存ジマセヌケレドモ、只今ノ御答辯デ稍、諒解ヲ致シマシタガ、此蠶種管理法ト云フモノハ昨日モ同僚ノ質問ニ對シテ答辯モアリマシタ如ク、直チニ今日蠶絲對策ノ、救済スベク乾イタ所ヘ水ヲ宛ガフガ如キ案デハナイ、五箇年モ經ッテカラ、徐々ニ、之ヲ捨テ置イテハイケナイ、管理統制ヲセネバイケナイト云フ案デアリマシテ、直グ本年カラ蠶絲對策トシテ救済ヲスル案デナイト云フコトハ明カデアル、斯ノ如ク五箇年モ掛ル案ヲ今更ノヤウデアリマスルケレドモガ、漸クニシテ、研究ニ研究、調査ニ調査ヲシテ出サレタ、吾々ハ既ニ一昨年カラ提案ヲ致シマシタガ、審議未了ニ終ッタ、或ハ審議ハ致シマシタガ、遂ニ貴族院ノ方デ未了ニ終ッタ、斯ウ云フヤウナコトデ、吾々ハモウ既ニ嘗テ之ヲ提出シタニ拘ラズ、政府ハ漸クニシテ練リ上ゲテ本年之ヲ提出スルト云フヤウナコトデハ、私共ハ之ヲ見テ、當局ガ怠慢デアルト責メルノデハナイケレドモガ、熱心ノ度ガ足りヌノデハナイカ、斯ウ云フ疑ヲ有ッテ居ルノデアリマスカラ、之ニ伴ウテ又當面ノ對策、直チニ本年蠶絲對策ヲセネバナラヌト云フ追加豫算モ出ルデアリマセウガ、ソレ等之ニ伴フベキ統制案件ナルモノハ多々アルノデアリマス、之ヲ今頃出シタト云フコトハ、何モ惡イト言フノデハナイケレドモ、如何ニ遲イト雖モ、五年掛ルト雖モ、出スニ越シタコトハナイカラ、此案ニハ決シテ異議ヲ挾ム者ハ一人モアルマイト思フノデアリマスガ、是ハ何時ノ時デモ、五年前ニ此案ガ出マシテモ、此案ヲ施行スル以上ハ、ドウシテ行ケバ

完全ニ行ケルカト云フコトデアリマスカラ、此質問應答ハ五年先デモ今デモ同ジ通リニ是ハ繰返サレルモノデアリマスカラ申上ゲマスガ、先程モ加藤サンカラノ御尋モアリマシタガ、九條ノ命令ニ依ッテ、縣デナク自家用ノ原種ガ製造出來ル、斯ウ云フ規定、機構等モ御示ヲ願フタノデアリマシタガ、是ハ私共ハ全然道府縣ノ外ハ原種ヲ製造スルコトヲ許サナイト、一ツノ弊害ガ起ルカモ分ラヌ、又許シタガ爲ニ非常ナル蠶絲業者間ノ機構ノ程度ト云フモノガ、細則デアリ決定ニナルデアリマセウガ、是ハ最モ公平ニ、最モ國ノ爲ニ、國家管理統制ノ上ニ一番大事ナ問題デアル、ソレデアリマスルカラ、大キナ郡是トカ或ハ何トカ云フ大キナモノニ向ッテ、中小蠶絲業者カラノ怨嗟ノ聲ガ起ッテ來ル、是ノ統制ヲヤルノガ自然ト原蠶種ノ管理統制ニナルノデアリマシタガ、是等ニ付テハ當局デハ今御答ノ三年間繼續ノモノデ、三萬蛾ノ設備ガ云々ト云フコトデアッテ行ク、假令各業者ガ合同的ニ出願シヨウトモ、相當資格ノアル者ハ許ス、資格ノナイ者ハ許サナイト云フコトデアリマシタテ此調和ガ取レテ行クト思ハル、ヤ否ヤ、其點ニ對スル細カナ御話ガ出來タラ伺ヒタイ

○井野政府委員 第一ノ此原蠶種國家管理ガ五年後ニ實施サレルコトハ、非常ニ生溫イ案デアルト云フ御話デゴザイマスガ、昨日モ申上ゲマシタヤウニ、強制管理ハ五年後デゴザイマスガ、明年度カラ國產系ノ品種ハ數量ヲ段々殖シテ參リマス、サウシテ五年後ニ初メテ強制管理ニ移ル、所謂漸進主義ヲ採リマシタノデゴザイマスカラ、法案自體ハ強制管理ノ規定デゴザイマスルカラ、此施行モ五年後ニナルヤウナ場合モゴザイマスガ、計畫自體ハ今申上ゲタヤウナ次第デアリマスルカラ、早速明年度カラハ本年度ニ較ベテ優良品種ガ多ク民間ニ渡ッテ行クト云フヤウニ御了解ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ第二ノ自治檢査ノ許可標準ノ問題デゴザイマスガ、是ハ御質問ノ通り無論公平ニ其認定ヲシナケレバナラヌノデゴザイマシテ、是モ蠶種製造業者ノ狀態カラ見マシテ、吾々ノ方デハ三十萬蛾以上ノ製造ヲ爲ス所ノ、而モ先程申述ベマシタヤウナ資格ヲ有ツ者デアルナラバ、他ト較ベテハハッキリ其區分ヲ作ツテ、隨テ公平ヲ期シテ許可モ出來ルト云フコトニ考ヘテ居リマスカラ、計畫上何等其點ニ付テハ支障ナキモノト考ヘテ居リマス

○近藤委員 本案ニ付キマシテノ質問ハ私ハ是デ打切りマス、ソレカラ蠶絲對策ニ付テハ、本委員會、或ハ本案デナク、又委員會デモ開ケタ折ニ、大臣御出席ノ時ニ尙ホ大臣ニ向ッテ質問スルコトガアリマスル、其時ニ讓ルコトニ致シマシテ、私ハ質問ヲ打切りマス

○戸井委員 外國ニ出シマシタ生絲ガ、殊ニ亞米利加デスガ、所謂絹靴下若クハソレニ類似ノコトニ使ッテ、ソレガイケナクナッテシマフ、切レテシマフトカ、汚ナクナッタト云フ時ニ、ソレガ更ニ又日本ヘ返ッテ來テ、其返ッテ來タヤウツ、相當ノ製造法ヲ以テ、又之ヲ再ビ使フ方法ヲ立テルト云フヤウナコトガアルノデアリマスルガ、ソレデハ非常ニ今生産過多デ困ッテ居ルノニ、反對ニ來ルコトハ大變困ルノデスガ、農林省ニ於テハ如何ニ御考ヘニナッテ居ルカ、又税關方面ニ於テハソレニ對シテドウ云フ取扱ヲシテ居リマスカ、一寸伺ッテ見タイノデアリマス

○井野政府委員 一旦外國ヘ出サレマシタ生絲ガ、絹靴下ノ古物トナリ此方ヘ戻ッテ參リマス事例ハ、當局ト致シマシテモ承知致シテ居リマス、此事實ニ對シテ民間ノ方カラモ何等カノ取締ヲシテ貰ヒタイト云フ要望モアリマシテ、色々研究ハシテ居リマス

ガ、御承知ノ如ク機械類或ハ其他ノモノヲ詰物トシテ是ガ入ッテ參リマス爲ニ、下ノ位ノ數量ガ入ルト云フコトガ的確ニ分リマセヌト、又税關ノ取締ニ於キマシテモ、詰物デアリマス爲ニ之ヲ取締ルコトガ中々困難デアリマス、左様ナ狀態デアリマシテ、吾々ノ方モ今日ノ蠶絲業ノ狀態カラ見マシテ、餘リスノ如キ物ノ多クノ輸入ヲ見マスコトハ好マシクナイト考ヘマスルガ故ニ、何等カノ方法ヲ講ジタイト考ヘテ居リマスガ、今申上ゲマシタヤウナ事情デ、甚ダ面倒ナモノデゴザイマスカラ、直チニ是ガ取締ニ付テノ手段ヲ講ジ得ナイノデゴザイマス、併シ此情勢ガ更ニ擴大サレルヤウナコトデゴザイマスレバ、十分研究シテ相當ノ手段ヲ講ジタイト斯ウ考ヘテ居リマス

○戸井委員 今ノ御答デゴザイマスガ、ソレハ唯單ニ詰物バカリデナクテ、相當ニ所謂荷造リノニナッテ入ッテ來ルト云フコトハ、横濱方面ナドデ吾々ハ見ルコトデアリマスガ、其邊ニ付テ御取調ベ、竝ニ税關ノ方ノ關係ト云フヤウナコトニ付キマシテモ、十分一ツ御取締御配慮ヲ願ヒタイト存ジマス

○百瀬委員 私ハ唯一ツ殘シテ居リマシタカラソレヲ御尋致シマス、ソレハ蠶品種ニ最重要ナル關係ヲ有ッテ居リマスル、生絲ノ

對策ニ付テ御尋申シタイノデアリマス、天然絹絲以外ノ纖維工業ト申シマスルト云フト、人絹、或ハ毛布、或ハ麻或ハ綿布ト云フヤウナ纖維工業デアリマス、此日本ノ天然絹絲ガ是等ノ他ノ纖維工業ノ中、何レヲ對象ニシテ將來對策ヲ御立テニナル御考デアルカ、其點ヲ承リタイノデアリマス、私共ノ調査スル所ニ依リマスルト云フト、人絹ヲ對象トシテノ生絲ノ對策ヲ講ズルト云フコトハ、今日デハ認識ヲ稍、誤ッテ居リハシナイカト云フ風ニ考ヘルノデアリマス、ソレヨリハ寧ロ毛布ヲ對象トシテノ生絲ノ將來ヲ御研究ニナル必要ガアリハシナイカト、斯様ニ考ヘラレルノデアリマス、ソレハ現物ノ價格ノ比率カラ申シマシテモ、亦消費額ノ比率カラ申シマシテモ、或ハ最近ノ生産額ノ比率カラ申シマシテモ、ドウシテモ毛布ヲ對象ニシタル蠶絲對策ヲ講ズルトガ最モ必要デハナカラウカト、斯様ニ考ヘラレルノデアリマスガ、當局ニ於カレマシテ生絲ノ對象物ヲ何ニスルカト云フコトハ、餘程蠶品種ノ選擇ノ上ニ關係ヲ持つ重要ナル問題ダラウト考ヘルノデアリマス、此點ニ付テ政府ニ相當ノ御研究ノ結果ガオアリノヤウナラバ承ッテ置キタイト思ヒマス

○井野政府委員 天然絹絲ト他ノ纖維トノ關係ニ付キマシテ、今後天然絹絲ヲ如何ナル方面ニ向ッテ進メルベキカト云フコトニ付テノ御尋ト考ヘマスルガ、天然絹絲ハ無論今日ニ於キマスル關係ニ於キマシテ、人造絹絲ノ進出ニ依リマシテ相當ノ打撃ヲ被ッテ居リマスルガ、是ハ人造絹絲ガ天然絹絲ヲ壓迫シテ居ルト云フ、寧ロ消極的ノ意味ニ於テノ今後ノ天然絹絲ノ對策ヲ考ヘルベキモノデアリマシテ、即チ是ハ人造絹絲ニ天然絹絲ガ如何ニシテ對抗シテ行クベキカト云フコトニ付テノ考慮ヲ要スル點デアリマシテ、天然絹絲ハ動物性デ、人造絹絲ハ植物性デアル、其處ニ自ラ品位、品質ニ違ヒガアルノデアリマスルカラ、天然絹絲ノ本來ノ性質ヲ一層向上セシメテ、天然絹絲自體ノ價值ヲ高メテ行クト云フコトガ、最モ必要デアルト考ヘテ居ルノデアリマス、其外ニ人造絹絲ニ對スル考方ト致シマシテハ、出來ルダケ生産費ヲ安クシテ、人造絹絲ノ進出ヲ見テモ、尙ホ天然絹絲自體ニ於テ防禦シ得ルト云フコトモ、併セテ考ヘテ行カナケレバナラヌト斯ウ考ヘテ居リマスガ、他ノ纖維ニ對シマスル天然絹絲ノ考方ト致シマシテハ、御説ノ如ク天然絹絲ハ今日世界ニ使用セラレマスル各種纖維ノ

中ノ百分ノ一、即チ一%ニ過キナイノデアリマシテ、他ノ纖維ノ領域ガ非常ニ多イノデアリマスカラ、之ニ向ッテハ、或ハ繭ノ部分ニ於テ、或ハ操絲ノ部分ニ於テ、種々ノ研究ヲ重ネマシテ、今御話ノ毛布ノ代用ト申シマスカ、或ハ洋服地ニ致シマシテモ、羊毛代用ニ向ッテ進メテ行ク、又或ハ木綿ノ領域ニ向ッテモ、相當ニ安イ繭ヲ作ッテ進ンデ行クト云フヤウニ致シマシテ、繭ナリ生絲ハ、今後ハ新規ノ製品ニ對シテ進ムベキモノデアルト云フ意味ニ於キマシテ、其研究ヲスル必要ガゴザイマスルガ故ニ、此度蠶繭類ノ新規利用ノ研究費ト云フモノヲ追加豫算ニ計上致シマシタ、斯ウシテ御説ノ如キ研究ヲ直チニ始メテ、我國ノ蠶絲業ノ更生ヲ圖ッテ行キタイ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○百瀬委員 當局ノ御答辯ニ依リマスルト云フト、他ノ纖維ニ付テモ、生絲ノ對象物ハ何レニ重點ヲ置イテ研究スベキデアルカラ知ル必要ガアル爲ニ、研究費ヲ置イタ言ハレマスルガ、モウ今日デハ人絹或ハ綿布麻ナドヨリハ、ドウシテモ、モウ毛布ヲ對象ニシテ研究シテ行カナケレバナラナイ時代デアル、斯様ニ考ヘルノデアリマス、是ハモウ別ニ研究ヲスル必要ガナイ程ニ、總テノ調査ノ上デ分ッテ居ルコトデアリマスガ、唯毛布ヲ對象トシテノ生絲ノ改善ヲ圖ルニハ、生絲ノドノ點ヲ改善スベキカト云フ問題ガ殘ッテ居ルダケデアリハシナイカト思フノデス、デ、ソレ等ノ所謂斷定的ノ御研究ガ今マデニ付イテ居ラズ、左様ナ確信ヲ得ル御調査ガ今マデニナイトスレバ、是ハ致方ナイノデアリマスケレドモ、私ハ兎ニモ角ニモ生絲ノ將來ノ對象物ハ、ドウシテモ毛織物デアル、斯様ニ確信ヲ致シテ居リマス、是ハ誤リナイト思ヒマス、デ、幸ヒ追加豫算ニモ研究費ヲ御計上ニナッデ御要求ニナッテ居リマスガ、アレバカリノ貧弱ナ豫算デハ、到底色々研究調査ハ覺束ナイト私共考ヘラレマスケレドモ、併シ無イニハ優ッテ居ルノデアリマスガ、只今申上ゲル通り、對象物ノ如何ニ依リマシテ、蠶品種ノ種類ノ選定ト云フコトガ非常ナ關係ヲ持チマスカラ、私ハ伺ッタノデアリマス、シカリトシタ御確信ガ當局ニナケレバ已ムヲ得マセヌケレドモ、此點ハ最モ當局ニ於テ考慮ヲサル、コトヲ望ンデ、私ノ質問ハ是デ終リト致シマス

○三善委員 曩ニ當局ノ追加豫算ノ説明ノ中ニ、養蠶實行組合ヲ作ッテソレニ補助スル、斯ウ云フヤウナ御意見ガアッタヤウニ思

ヒマスガ、ドンナ風ニシテ補助ヲナサルカ、技術員ニ補助ナサルカ、或ハ養蠶組合其モノニ補助ナサルカ、又若シ養蠶實行組合ヲ作ッテ技術員ヲ設置スルトスレバ、全國ニドノ位ノ養蠶實行組合ヲ作ッテ、ソレニ對シテドウ云フ工合ニ之ヲ補助ナサルカ、此點ハ一寸豫算總會ノ時ノ政府當局ノ御答辯ト違ッテ居リマスカラ、其點ヲ御聽キシテ置キタイ

○井野政府委員 養蠶指導員ノ設置助成ニ關シマス追加豫算ハ、農林漁業團體活動促進費トシテ四十萬圓ノ中ニ入ッテ居リマス、此補助ノ仕方ハ大體養蠶業組合ニ指導員ヲ設置致サセマシテ、ソレニ對シテ國方補助スル、其養蠶業組合ノ指導員ト云フモノハ、實際ニハ養蠶實行組合ニ配屬セシメマシテ、サウシテ養蠶實行組合ノ經營ヲ指導シテ行クト云フ建前ニナッテ居リマス

○三善委員 養蠶組合ニ技術員ヲ置イテ、其技術員ガ養蠶實行組合ヲ指導シテ行ク、斯ウ云フ譯ニナルノデアリマスガ、全國ニドレ位ノ組合ガアッテ、サウシテ之ニ何名位ノ技術員ガ居ルカ、其補助ノ方法ハドンナ工合ニ補助ニナッテ居ラレマスカ

○井野政府委員 現在養蠶實行組合ニ居リマス養蠶教師若クハ養蠶指導員ノ數ハ、大

體季節ノモノト常置ノモノヲ併セマシテ一萬人位デアリマス、其中ニ常置ノモノガ約六百名位居ルコト、承知シテ居リマスガ、ソレ等ノ中ノ季節的ノモノヲ今後ハ成べく常置ノモノニシテ、ソレヲ養蠶業組合ニ置キタイ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス、大體一萬二千組合ニ配屬致サセマシテ、一人十組合ヲ持タセル、ダカラ千二百人ヲ設置スルト云フ目的デ豫算ヲ組ンデ居リマス

○三善委員 千二百名ノ技術員ヲ置イテ、其千二百名ノ技術員ニ對シテ追加豫算ノ範圍ニ於テ全部平等ニ補助サレルノデアアルカ、或ハ實行組合ニ對スル技術員ヲ御設ケニナルノデアアルカ、其邊ガドウモ今日ノ豫算總會ニ於ケル政府當局ノ説明デハ技術員ノ居ナイ所ニ技術員ヲ置ク、又技術員ガ現在居ッテモ、其技術員ヲ維持シテ行クノニ非常ニ困難ナ所ニ、技術員ノ質ヲ向上サセル爲ニ此追加豫算ヲ要求シタノデアアルト云フヤウナ御答辯デアッタヤウデアリマスガ、アナタノ今言ハレルヤウニ此技術員ニ補助サレルト云フコトニナルト、ドウモ其點ガ豫算總會ニ於ケル政府當局ノ説明ト矛盾スルヤウニ思ヒマスガ、如何デアリマスカ

○井野政府委員 豫算總會ニ於キマシテ政府委員ノ答辯シタコト、少シモ矛盾シナイ

ノデアリマス、今度置キマスノハ養蠶業組合ニ置クノデアリマスカラ、新設ニナル譯デアリマス、今マデ養蠶業組合ニハ斯ウ云フ指導員ヲ置イタコトハナイノデアリマスカラ、隨テ養蠶業組合ニ置キマシテ、サウシテ養蠶實行組合ニ配屬セシムルト云フノガ此方ノ案ノ立テ方ニナッテ居リマス、隨テ先程御述べニナリマシタヤウニ新設ノ技術員ニ對シテ補助スル、季節ノモノ、俸給ヲ支拂フト云フ意味ノ助成デハナイト云フ風ニ、其時ニ政府委員ガ述べタト思ヒマス

○三善委員 サウ致シマス、矢張前ニ御話ノ千二百名カノモノニアノ中ノ二十萬圓カト思ヒマスガ、ソレヲ全部平等ニ補助ナサル御考デスカ、何カ其點ニ對シテノ御意見ハドンナモノデセウカ

○井野政府委員 豫算ノ立テ方トシマシテハ無論平等ニ補助スベキ平均的ノ計數ヲ有ッテ居リマス、隨テ實行致シマス場合ニ於テモ各府縣ニ割當テマシテ、サウシテ補助ヲ決メテ行キタイト考ヘテ居リマス

ハナイノデアリマスガ、尙ホ又人件費ニ對シテモ補助ハナイモノト承ッテ宜シウゴザイマスカ
尙ホ御聞キ致シタイト思ヒマスガ、各府縣トモ府縣ノ實情ニ應ジマシテハ成べく原原種ヲ——國家ノ造ッタモノヲ早く製造シタイト云フヤウナ希望モアルト思ヒマス、サウ云フ場合ニ、此各府縣ガ設備ヲ致シマス場合ニ、政府ノ御意見デハ昭和十三年度以降ニ設備シタモノニ補助スルト、斯ウ云フヤウナコトデアリマスガ、ソレ以前ニ設備ヲ致シタモノニ對シテモ矢張其補助ノ範圍ニ於テヤラレルカ、十三年度以降デモ宜シウゴザイマスガ、設備シタモノニ對シテハ補助ヲ御遣リニナル積リデアリマスカ、モウ十三年以前ニ設備シタモノニ對シテハ致シ方ハナイト云フ御見解デアリマスガ、私ハ之ヲ成べく促進セシムル上ニ於キマシテ、府縣ガ十三年以前ニ設備シタモノニ對シテモ、補助ヲ與ヘル時期ハ違ヒマシテモ、是ハ御遣リニナルコトガ適當デハナイカト、斯様ニ思ヒマスガ、此點ヲ御同致シマス

○井野政府委員 十三年度マデニ於キマス各府縣ノ製造ハ先日モ申上ゲマシタヤウニ漸進主義ヲ原則トシテ行キタイト云フ風ニ

考ヘマスガ、ソレ以前ハ設備ヲ要シナイモノト考ヘテ居リマスガ、府縣ニ依リマシテ或ハ十三年度以後ニ造ルヨリハ、早く造ッタ方ガ宜イト云フ意味ニ於テ造ル場合ガアルカト思ヒマスガ、之ニ對シテハ今日ノ豫算ノ立テ方カラ申シマス、補助ハ出來ナイコトニナッテ居リマス、併シソレ等ノ點ニ付キマシテモ、今後縣ノ事情等ヲ能ク考ヘマシテ、折角考慮シテ見タイトモ考ヘテ居リマス

○永田委員 私ハ此案ノ實質ニ付テ一二質問ヲ致シタイト思ヒマス、尙ホ一二ノ希望ヲ申上ゲタイト思フノデアリマスガ、茲ニ説明書ニ書イテアリマス「試育所等及適當ナル箇所」トアリマス、之ニ付キマシテ、大體當局ニ於カレマシテハ、ドウ云フ御見解ヲ有ッテ居ラシヤイマスカ、又祕密ヲ發表サレヌ點ガアルカモ知レマセヌガ、御差支ノナイコトヲ一應此處デ承ッテ置キタイト思フノデアリマス、吾々ガ昨年此案ノ前提トシマシタ研究等ニ於キマシテハ、當局ノ案ハ五百五十萬圓位ノ經費ヲ取ッテ、サウシテ先ヅ一箇所ニ五十萬圓、全國ニ十箇所カ十一箇所位ノ原原種ノ製造所ヲ設置シタイト云フコトヲ御説明ニナッタコトヲ記憶シテ居ルノデアリマス、然ルニ今日御提出ニ

ナリマシタ説明書ニ依リマス、原原種ノ製造ハ是ハ直營ノ本場ト全國ノ出張所、ソレカラ茲ニ又質問シマシタ試育所及適當ナル箇所トアリマスカラ、大體今年ノ豫算デ何箇所御著手ニナリマスカ、尙又此案ガ四箇年掛カルト仰シヤイマスガ、四箇年ノ間ニ何箇所ヲ全國ニ御設置ニナル見込デアリマスカ、是ガ私ノ質問ノ重點デアリマス、之ヲ大體承ッテ置キタイト思フノデアリマス

尙ホ私ハ此際ニ當局ノ意嚮ヲ聞キタイノハ、蠶業試驗場其モノハ、從來蠶絲業ノ方面ニ於キマシテ、或ハ桑園ノ栽培デアルトカ飼育法等、年々此試驗ヲ爲サツテ居ルコトハ明ナル事實デアリマス、ソレニ原原種ノ製造ヲ同ジ所デ二ツ爲サル、無論結構ナコト、思ヒマスケレドモ、前ニ他ノ諸君ノ質問モアツタ通り、原原種ノ製造ハ是ハ餘程重要ナコトデアアル、然ラバ蠶業試驗場ニ於テ製造爲サルコトハ無論異議ハナイガ、他ニ新シク適當ナ場所ヲ創設シテ、サウシテ健全ナル原原種ヲ製造スルコト云フコトガ、私ハ本案ノ最重要ナ出發點デアルト思ヒマス、然ルニ昨年ノ説明ニハ隨分新設ガアルヤウナ模様デアリマシタガ、今年ハソレガハッキリ致シマセヌ、是ハ私ハ重要

ナルコト、思ヒマスカラ、ハッキリト當局ノ方カラ將來何箇所日本國內ニ設置スル積リデアルト云フコトヲ大膽ニ發表シテ戴キタイト云フコトヲ希望スル者デアリマス、尙ホ私ハ此蠶業試驗場ノ性質カラ考ヘマシテ、一ツノ疑問ヲ持ッテ居ルノデアリマス、ソレハ從來此蠶業試驗場ノ桑園ノ栽培トカ、或ハ蠶ノ飼育ニ付キマシテハ、皆大部分男ノ仕事ニナッテ居ルト云フコトヲ私ハ見受ケマス、何處ノ蠶業試驗場ヲ觀察シテモ、大體所員ハ大部分男ノ人が從事シテ居ル、又府縣ノ試驗場デアツテモ左様ニ見受ケルノデアリマスガ、併シ日本ノ蠶業試驗場ノ中ニタツタ一箇所大部分女子デアツテ、唯所長ト所員ノ數名タケガ男子デアツテ、他ノ者ハ女子デヤツテ居ル所ガアルノデアリマス、私ハ之ニ鑑ミマシテ考ヘテ見マスト云フト、蠶絲業其モノハ家庭的ノ仕事デアツテ、之ニ從業ヲシテ居ル者ハ大部分女子デアアル、男子ハ外ニ向ッテ活動スルカラ、家庭ニ於テ蠶ヲ掃立ッテカラ繭ニスル迄ハ女ノ手ヲ食フコトガ一番多イノデアリマス、然ラバ蠶絲業ノ進展ヲ圖ル上ニハ女子ノ教育モ必要デアアル、是ハ文部省トモ關係ノアルコトデアリマスガ、元々今ノ蠶業學校ハ蠶業講習所トシテ農林省デヤツテ居ラレタ

コトガアルノデアリマス、此點カラ考ヘマシテモ女子ヲ能ク利用シ、指導シテ行クコトガ必要デアルト思フノデアリマス、此意味カラ考ヘマシテ殊ニ此原原種ノ製造ノ如キハ、私ハ唯學校ヲ卒業シタ男ノ人バカリデハ本當ノ立派ナ原原種ハ製造ガ出來ナイト思フ、之ニハ隨分高等ノ教育ヲ受ケマシタ女子ノ溫イ手ニ依ッテヤラナケレバ本當ノ飼育ノ成果ハムヅカシイト思フノデアリマス、此意味カラ考ヘマシテ蠶業試驗場ノ組織ニ於テ其内容改善ノ必要ガ私ハアルト思フ、然ラバ此際ニ於テ當局ハ之ニ向ッテドウ云フ計畫ト御決心ヲ持ッテオイデニナルカ、是ハ私ハ將來日本ノ蠶絲業ノ上ニ重要ナルコト、思フノデアリマス、之ニ付キマシテ一應當局ノ意見ヲ承ッテ置キタイト思フノデアリマス、尙ホ又此案ノ數字的ノ内容デアリマスルガ、兎ニ角此處ニ金額が見エテ居リマスノハ、金四十九萬六千四十圓、是ハ九年度ノ豫算デアアルガ、洵ニ蚤ノ率九位ノ小サイ豫算デアツテ、之ヲ一國ノ豫算トハ私共ハ見ルコトガ出來マセヌ、斯ウ云フ小サイ豫算デアツテハ、私ハ田舎ノ村長モ、村會議員モシテ參リマシタガ、是ハ町村ノ豫算位ノモノデアアル、是ハ國ノ豫算トハ言ヘナイ程ノ少イ豫算デアアル、斯ウ云フ

小サイ金ヲ以テ蠶絲業ノ根本策ヲ解決セン
トスルコトハ、是ハ洵ニ恐入。タコトデ、御
五ハ失望致シタ次第デアル、此豫算ヲ見ル
ト、初年ハ僅ニ五十萬圓位デアルガ、數日來
當局ノ御説明ニ依リマスト云フト、是カラ
先來年度カラ六十萬圓宛三箇年間ヤルト仰
シヤイマスカラ、合計約二百三十萬圓ニ
ナツテ居リマスカ、是ハ昨年一寸説明ニナ
リマシタ五百萬圓ニ較ベマスト、其半額
ニモ達セヌ額デアル、而モ昨年ノハ一箇年
デアッタノガ、今年ノデハ四箇年ニ之ヲ分ケ
テ出スト云フノデアリマスカ、此來年カラ
六十萬圓ト云フノハ設備費ダケデアッテ、經
常費ガ含マレテ居ラヌノデアリマスカ、是
モ一寸明瞭ニ説明ヲ願ヒタイと思ヒマス、
先ヅ此點ニ付テ御答辯願ッテ、再ビ質問致
シタイと思ヒマス

○井野政府委員 大體四ツノ問題ニ付キマ
シテ御質問ノヤウデゴザイマスカラ、先ヅ
第一ノ點ニ付キマシテ御答ヲ申上ゲマス
ガ、昨年ノ原蠶種管理委員會ニ於テ政府ガ
大體造ルトスレバ是レ位ノ計畫デアルト云
フコトヲ申上ゲタ豫算ガ約五百萬圓デア
ルト云フ御話デアリマシタガ、其當時政府
致シマシテ原蠶種管理ヲ最モ完全ニ行フニ
ハ此位ノ金ガアレバ出來ルト云フ計畫ヲ申

上ゲタノデアリマス、此金ヲ以テ必ズ實行
スルト云フ意味デナイコトハ其當時ノ情勢
カラ見シテモ能ク御諒承ヲ願フコト、
斯ウ考ヘテ居ルノデアリマスカ、今日ノ財
政狀態ニ於キマシテ吾々モ之ヲ許シマス
ナラバ今申上ゲマシタヤウナ理想案ニ向ッ
テ進ンデ行キタイノデアリマスカ、併シ財
政上ソコマデノ計畫ヲ致シマセヌデモ、十
分原蠶種ノ國家管理ヲ行ヒ得ル方法モゴザ
イマスノデ、ソレ等ノ點ヲ十分研究致シマ
シテ作りマシタノガ、本年度御協賛ヲ經テ
居リマスル原蠶種管理ニ關スル豫算デゴザ
イマス、金額ハ初年度五十萬圓、次年度以降
六十萬圓ト云フコトニナツテ居リマスカ、其
初年度五十萬圓、次年度以降六十萬圓ト云
フ計畫ノ中ニ於キマシテ、製造所ヲ何箇所
設ケルカト云フノガ第一ノ御質問デゴザイ
マスカ、ソレハ大體今度ノ案ガ蠶業試驗場
ヲ擴張シテ原蠶種管理ヲ行ッテ行ク、昨年ノ
案ハ蠶業試驗場トハ別ニ原蠶種管理場ヲ設
ケルト云フ案デゴザイマシタガ、本年ノハ
原蠶種管理場ヲ別ニ設ケナイデ、蠶業試驗
場ヲ擴張シテ行クト云フ案デアリマスカ
ラ、大體ハ蠶業試驗場ヲ擴張シテ原蠶種管
理ヲ行ッテ行クノガ主ニナツテ居リマシテ、
其他ニ新設ヲ四箇所シタイト云フ考デ居リ

マス、唯其選定等ニ付キマシテハマダ確定
的ニ決メテ居リマセヌカラ、今申上ゲル譯
ニ參ラナイノデアリマス、ソレカラ四箇年
デ以テ初年度五十萬圓、次年度以降六十萬
圓、二百三十萬圓程デハ昨年ノ半分デア
ルト云フヤウナ御話デアリマシタガ、ソレハ
設備ヲ造リマスノハ四年間デアリマスカ、
其後ハズツト繼續的ニ此事業ヲ行ッテ行クノ
デゴザイマスカラ、六十萬圓ト云フモノハ
經常的ニズツト後年度マデ行クノデアリマ
スカラ、其點ハ今ノ御計算トハ少シ違フコ
トニナラウト思ヒマス、ソレカラ蠶業試驗
場ニ於テ女子ノ講習ヲ大ニヤラナケレバナ
ラヌト云フ御話デゴザイマシタガ、無論今
日ニ於キマシテモ講習ト致シマシテ、女子
ヲ目的トシテ居ル講習モヤッテ居ルノデゴ
ザイマスカ、御承知ノ如ク蠶業試驗場ノ主
ナル仕事ハ講習デハナイノデゴザイマスカ
カラ、隨テ蠶業試驗場ヲ大ニ改革シテ女子
ノ講習ヲ擴張スルト云フコトハ今ハ考ヘテ
居ラナイ譯デアリマス、ソレカラ原蠶種製
造ヲ蠶業試驗場ニ於テ行フヨリハ、別ノ所
デ行フノガ適當デアルト云フ御意見デゴザ
イマスカ、是ハ今日ニ於キマシテモ官制ヲ
御覽下サイマスト分リマスカ、蠶業試
驗場ノ主ナ仕事トシテ原蠶種製造ヲヤッテ

居ルノデアリマシテ、而モ今日造ッテ居リマ
ス數量ハ六萬蛾、來年度ハ九萬蛾ト云フ風
ニ製造量ヲ殖シテ行ク豫定ニナツテ居リマ
スカラ、蠶業試驗場ヲシテ原蠶種ノ製造ニ
當ラシメマストハ、少シモ差支ナイコト
、考ヘテ居リマス

○永田委員 只今當局ノ説明ニ依リマス
ト、私ハ益々奇怪ニ思フノデアリマス、次
年度カラハ六十萬圓宛デアアル、是ハ永遠ニ六
十萬圓宛トシテアリマスカラシテ、此金ハ
一時デアッテ、之ニハ設備費ト新シイ新設ノ
費用ハ含マレテ居ナイト承知シテ宜シイノ
デアリマスカ

○井野政府委員 次年度以降六十萬圓ト申
シマシタノハ設備費ダケデアアリマセヌノ
デス、人件費モ入ッテ居リマスカ、設備
費モ入ッテ居リマス、兩方併セマシテ次年度
以降六十萬圓デアリマス、ソレハドウ云フ
譯デアリマスカト申シマス、今年ノ計畫
ハ、明年度九萬蛾、明後年度十九萬蛾ト云フ
風ニ原蠶種ノ蛾數ヲ殖シテ參ル計畫ニナ
テ居リマスカラ、設備ヲ段々建テ、行キマ
スト、ソレニ伴ッテ人件費ガ殖エテ行ク譯デ
設備ノ方ガ完成シテ參リマスト、ソレニ要
スル經常費ガ殖エテ行ク、ソレヲ兩方併セ
マスト、大體年々六十萬圓ノ範圍ニ於テ

此計畫が實行出來ル、斯ウ云フコトニナッテ居ル譯デアリマス

○永田委員 ドウモ私ハ頭ガ悪いノデ分リマセヌガ、此六十萬圓ノ内譯——今年ハ營繕費ノ方ニ四十五萬圓入ッテ居ルノデアリマスガ、來年カラ六十萬圓ト言ハレマス、此六十萬圓ノモノガ、永遠ノ維持費トシテ維持シテ行クモノガ幾何、又原原種ノ製造ノ今迄ナカッタノ新ナ設備ヲスル方ニ、例ヘバ金何萬圓ト云フ風ニ内譯ヲハッキリト仰シヤルコトハ出來ナイデゴザイマセウカ、サウデナイト原原種ノ製造ニ對シテ、政府ハ僅カ五十萬圓デ此計畫設備ニ於テハ、不足ハナイト御鑑定ノ上デ此案ヲ御出シニナツノカ、ソコヲ明瞭ニ伺ッテ置キタイト思フノデアリマス

○井野政府委員 大體ノ計畫ハ、無論明年度以降出來テ居ルノデアリマスガ、マダ大藏省ト色々細カイ點ニ付テ折衝シナケレバナラヌ點ガ殘ッテ居リマスノデ、明年度以降ノ細カイ點ヲ申上、ゲル譯ニハ行カナイノデアリマス、大體ノ財政計畫トシマシテ、六十萬圓宛ヲ認メルト云フコトニ付テハ、兩省ノ諒解ガ出來テ居リマスカラ、左様御諒承願ヒタイト存ジマス

○永田委員 其點ハ能ク分リマシタガ、蠶

業試驗場ハ現在原蠶種ノ配付ヲスルノガ主ナコトニナッテ居ルト云フコトハ仰セノ通りデアリマス、私モサウ諒承致シテ居リマスガ、但シ私ガ先程申上ゲタノハ少シ言葉ガ足りナカッタヤウデアリマスカラ、茲ニ補足致シテ置キタイと思ヒマス、吾々ハ蠶業試驗場ノ仕事ヲ從來ヤッテ居ラレタコトバカリデ、御互ハ養蠶家ノ立場カラ満足シナイ、蠶業試驗場ハ唯蠶ヲ飼フトカ、桑園ノ試驗トカ、原蠶種ヲ製造スルト云フコト以外ニ、私ハ更ニ進ンデ之ヲ先ノ方ニ進メテ欲シイノデアリマス、其意味カラ考ヘマシテモ、是ハ商工省ニモ關係ガアリマスガ、矢張蠶絲業ノ最後ノ目的ハ、他ノ諸君モ仰シヤッタ通り唯蠶ヲ飼ッテ、繭ニシテ亞米利加ニ賣レバ宜イト云フノハ過去ノ時代デアッタノデアリマス、今日斯ウ云フ難局ニ對シタ場合ニハ、ドウシテモ先ニ進ム活路ヲ見出サナケレバナラス、サウスルニハ矢張男子バカリノ仕事デハイカヌ、家庭ノ仕事ハ女子ガ大部分ダカラシテ、教育ノ方針カラ見テモ日本ニ女子ノ蠶業學校ヲ設置スベキデアル、又試驗場ノ内容モ從來男子バカリデアッタノヲ、何モ風紀ナンカ考ヘル必要ハナイ、生キルカ死ヌカト云フ今日ノ場合ニハ、女子モ置イテ適切ナル施設ヲセヌケレ

バ私ハ面白カラヌト思フノデアリマス、私ハ原蠶種ノ製造ニ女子ヲ將來加ヘルト云フコトハ、確ニ眞理デアルト云フ信念ヲ有ッテ居リマス、現ニ私ノ十數年間ノ經驗カラ申シマシテモ、從來種分ケニハ男ノ技手ガ管理者トシテ雇ハレテ居ッタデアリマス、所ガ月給ハ高イシ、稀ニハ燒酎ナンカラ嘗メテフラ／＼シテ、其爲ニ原蠶種ノ製造場ガ火災ニ罹ッタコトモアル、所ガ鹿兒島縣ノ大隅ニ一箇所女子ノ試驗場ガ出來タ、是ハ女學校ヲ終ッタ者ヲ教育シテ、其者ヲ管理者トシテ女子ヲ使ッタ、所ガ月給モ安イシ、而モ男子ヨリ女子ハ非常ニ細心、能ク氣ヲ付ケテ不埒ヲシナイデヤル、ソレデ非常ニ結果ガ好クテ、男子ノ方ハ使ハヌト云フコトニナッテ居リマス、サウ云フ立派ナ例ガアル、中央ヨリモ田舎ノ大隅ノ方ニ却テサウ云フコトガ行ハレテ居ル、尙ホ鐘紡ノ如キハ二千町歩ノ厩大ナル土地ヲ買上ゲテ、養蠶ノ試驗モヤッテ居ル、田舎ニ於テモ此問題ニ對シテハ隨分研究ヲシテ居ル、田舎デヤッテ非常ニ好イト云フノデアリマスカラ、中央デヤッテ決シテ惡イト云フコトハナイト思ヒマス、寧ロ蠶絲當局ガ眠ッテ居ルカラ、今日迄御互ハ斯ウ云フ不況ニ呻吟シテ居ルノデアル、是等ニ向ッテ苟モ一人ノ言フコトデ

アッテモ眞理デアルト思ッタナラバ、直グ其眞理ヲ探ッテ以テ之ヲ試驗シテ、吾々農民ノ立場ヲ救ッテ貰フト云フ親切ガ欲シイ、正直ニ申シマシテ蠶業試驗場ニ於テ原蠶種ヲ造ルト云フコトハ、昨年仰シヤルコト、今年仰シヤルコト、違ッテ居ルノデアル、一體男ガ仕事ヲスルニハ腰ヲシッカリ据エテヤッテ、若シソレガ容レラレナケレバ農林大臣、其他諸公ハ辭メテモ農民ノ爲ニ盡スト云フ熱意ガアレバ、斯ウ云フ蠶ノ舉見タイナ、四十九萬圓位ノ僅カナ豫算ノ出ル筈ガナイ、此點ヲ御互ニ憤慨ニ堪ヘナイカラ、蠶絲業ノ實際ニ携ッテ居ル吾々ハ、養蠶家ノ立場カラ此委員會ニ於テ當局ノ猛省ヲ促スモノデアリマス、此意味カラ考ヘマシテ、本豫算ノ内容ノ如キモ私ハモット突込ンデ聽キタイ、此四十九萬六千四十圓ノ内譯ハ三萬八千六百三十九圓ガ俸給事業費ト書イテアリマスガ、此俸給ノ中ニハ女子ガ一位デモ入ッテ居ルノカ、聽イテ置キタイ、吾々ハ經驗ニ基イテ地方ノ實情等ヲ申上ゲテ居ルノデアリマスガ、蠶業試驗場ノ原原種ノ製造ノ如キハ本場ニ於テヤラレルコトハ尤モデアリマスケレドモ、昨年ノ案ノ通り、新シク適當ナル場所ニ蠶種製造場ヲ設ケルコトハ實際ノ農民ノ實情ニ照シテ明カデア

リマス、片倉トカ、郡是トカハ皆自分ノ膝下ニ於テ蠶種ヲ決シテ製造シテ居ナイ、伊豆トカ、八丈島トカ、大隈トカ、沖繩等ニ於テ製造致シテ居ル、斯ウ云フ暖カナ、病毒ノナイ處デ製造シテ居ルカラ、折角斯ウ云フ案ヲ御出シニナルナラバ、新シキ場所デ十分研究シテ、健全ナル原原種ヲ造ルト云フコトニ付テノ親切ガ足ラヌヤウニ思フ、此點ニ向ッテ、當局ハ果シテドレダケノ誠意ガアッテ、斯ウ云フ案ヲ御組ミニナッタノカ、又昨年ノ案トハ多少差異ガアルヤウニ思ヒマスカラ、サウ云フ差ガ何故アルノカ、御同致シマス

○井野政府委員

原蠶種製造ニ當リマシテ女子ヲ使フト云フコトニ付キマシテハ、無論蠶種製造ニ當ル地方々々ノ事情ニ依ッテ、女子ノ宜イ所モアルシ、又男子ノ宜イ所モアリマシテ、ソレ等ノ事情ハ原蠶種國家管理ヲ致シマス際、先程申シマシタヤウニ、事業ノ擴張ヲ致シマス際ニ、又ハ新設ヲ致シマス際ニ十分サウ云フ點ヲ考慮致シマシテ、必要ナラバ無論女子ヲ使用シ、又豫算ノ中ニモ女子ヲ使用シ得ル經費ガアリマスカラサウ云フ點ハ考慮シテ行キタイト思ヒマス

○畑委員

今ノ永田君ノ質問ニ關聯シテ御尋致シマス、只今ノ質問ハ非常ニ結構デアリマシテ、御答辯ニ於テハ甚ダ不満足デア

リマス、私共左様ナ感じヲ持ッテ居リマス、國立蠶業試驗場ノ所在地ニ於キマスル蠶種ハ非常ニ宜イ、是ハ昨日モ全ク間違ナイ種ガ出來ルト仰シヤイマシタガ、私モ同感デアリマス、然ルニ其蠶業試驗場カラ他ノ府縣ヘ利用サレル所ノ蠶種ノ品種ガ段々劣ッテ、ソレガ爲ニ蠶種製造家、又ハ養蠶家ニ致シマシテモ、國立蠶業試驗場カラ配付サレル、積リ原種ヲ持ッテ居ル所ノ蠶種製造家ニ向ヒマシテ續々蠶種ヲ注文スル、折角其府縣ニ於テ相當苦心シタ蠶種モ一向受入レラレナイ、ソレハ何トナレバ、其成績ガ不良ナル爲メデアリマス、デアリマスカラ來ル十三年迄ニ追々完成サレルト云フ御話デアリマス、其際ニハ各府縣ニ國立蠶業試驗場ヲ設立シテ、現在ノ府縣蠶業試驗場ヲ利用サレルト云フ御方針デアリマスガ、十三年後ニ於キマシテハ全ク各府縣ヲ國立蠶業試驗場ニ御直シニナッテ、品種ノ統一サレタ、又成績ノ優良ナルモノヲ、全國ニ普ク供給サレルヤウナ方針ヲ御立テニナル御考ハアリマセヌカ、御尋致シマス

○井野政府委員

原蠶種國家管理ノ計畫ハ原原種ヲ國ニ於テ造リ、原種ヲ府縣ニ於テ造ラシムルト云フ方針ノ下ニ立テ、アルノデアリマスカラ、隨テ國ノ造リマス原原種ノ製造所ハ、先程申シマシタヤウニ蠶業試驗場ヲ擴張スルナリ、或ハ新設スルナリシテ、之ニ當ラシムルト云フコトニナリマスガ、府縣ノ蠶業試驗場ハ、原種ノ製造所デアリマスカラ、之ヲ國營ニ移スト云フ考ハ今ノ所持ッテ居ラナイ次第デアリマス

○畑委員

ソレガ非常ニ私共ノ不滿デアリマス、詰リ蠶種製造所々在地ノ府縣ノ蠶種ハ非常ニ優良デアッテ、養蠶ノ結果モ良イ、所ガ現在ソレカラ他府縣ニ移サレル所ノ蠶種ナルモノハ、段々品種ガ惡化スルノデアリマス、デアリマスカラ折角養蠶業ノ根本政策トシテ、今日原蠶種國家管理計畫ヲ御立テニナル以上ハ、現在ノ府縣蠶業試驗場直屬ノ原種ガ、各府縣ニ於テ適當ナル蠶種トナッテ現レマシテ、サウシテ速ニ供給サレルト云フコトガ、非常ニ我國養蠶業ニ對シテ優良ナル結果ヲ齎スノデハナイカト思フノデアリマス、ソレニハ豫算ノ關係モアリマセウシ、色々府縣トノ關係モアリマセウケレドモ、私ハ此計畫ヲ是非共執ッテ欲シイモノデアル、原原種デアアルカラ斯ウデアアル、原蠶種デアアルカラ斯ウデアルト云フヤウナ、各蠶種ノ形態ニ依ッテ製造形態ガ變ッテ行ク、ソレガ爲ニ蠶種ガ段々劣等ニナッテ行クト云フコトハ非常ニ歎カハシイ、故ニ優

良ナル原蠶種ヲ以テ、優良ナル蠶種ヲ直チニ各府縣ニ供給スル、斯ウ云フ計畫ヲ一日モ早ク立テ、戴キタイト思フノデアリマス、ドウカ其點ヲ一ツ御考究ヲ願ヒマス

○生田委員長

横川君

○横川委員

强健ナル蠶種ヲ供給致シマスコトハ、蠶作ノ安定ニ關シマシテ最モ必要ナコトデアアルコトハ勿論デアリマス、サウ云フ趣旨カラ此蠶種統制ノ法案モ立案サレタモノト思フノデアリマスルガ、其見地カラ致シマシテ、一蛾カラ掃立テマス所ノ歩合、即チ最高ノ製造數量ト云フモノハ、之ヲ何等カノ方法デ規定シナケレバナラスト思フノデアリマスガ、之ニ付キマシテハ何等カノ腹案ガアリマスルカ、又其見地カラ致シマシテ、蠶作歩合ノ安定ヲ期スル爲ニ、如何ナル統制ヲ爲サル、御考デアリマスルカ、是モ併セテ御同致シマス

○井野政府委員

横川委員ノ御説ノ如ク、原原種ヲ國ガ造リマシテ、府縣ヲシテ原種ヲ造ラシメルト云フ場合ニ於テ、餘リ多量ニ之ヲ造リマスコトハ、品種ヲ害スル所以デゴザイマスカラ、是等ノ點ニ付キマシテハ十分考慮シタイト思ッテ居リマスガ、今之ヲ法制ヲ以テ禁ズルカドウカト云フコトニ付テハ、モウ少シ研究ヲシテ見タイト

考ヘテ居リマス

○横川委員 將來強制管理ヲ實施サレマス時代ニ相成リマシテモ、原種竝ニ蠶種ノ製造歩合ニ付テノ特別ナ統制ヲ爲サル、御考ハナイノデアリマスカ

○井野政府委員 強制歩合ニナリマスマデハ、サウ云フヤウナコトハ無論考ヘマセヌガ、強制歩合ニナリマシタ際ニ、只今申上ゲマシタヤウニ、ソレ等ノ點ニ付テハ十分考究ヲシテ、必要アラバ法制ヲ以テ統制シタイ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス

○横川委員 昨日統制ノ問題ニ付キマシテ御意見ヲ伺ッタノデアリマスルガ、非常特別ナル場合ニ於テハ、價格竝ニ數量ノ統制ニ付テノ考ガアルト云フ御話デアッタノデアリマスガ、非常特別ナル場合以外ニ、通常ノ場合ニ於キマシテモ、當然數量竝ニ價格ニ關シマスル統制ガ必要デアルヤウニ思フノデアリマスガ、其御考ハナイノデアリマスカドウカ

○井野政府委員 原蠶種ヲ國家ニ於テ管理シマスルコトハ、今御話ノヤウナ點ガ相當ノ重要部分トナッテ現レテ來ルト思フノデアリマスガ、唯十四條ノ統制命令ニ付キマシテ、ドウ云フ命令ヲ出スカト云フ場合ヲ昨日ハ御答シタノデゴザイマス、此場合ニ

於キマシテハ、主トシテ非常時ニ於テ此統制ヲ行フノデアルト云フコトヲ御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス

○横川委員 サウ致シマスト平常時ニ於キマシテハ、統制ニ付テノ何等ノ御考ガナイノデアリマスルカ、若シ御考ガアリト致シマスルナラバ、ソレヲ具體的ニ御示ヲ願ヒタイト思フノデアリマス

○井野政府委員 平常時ニ於キマスル統制ニ付キマシテハ、製造ヲ管理スルト云フコトガ統制ノ大キナ部分デゴザイマシテ、隨テ國ガ配付シマス所ノ原原種、或ハ府縣ガ配付シマス原種ノ價格ト云フ問題ニ付キマシテモ、勅令ヲ以テ色々統制ガ取レマスシ、又數量ニ付キマシテモ、大體ハ請求數量ヲ本トシテ、國モ府縣モ造ッテ行クノデアリマスカラ、ソレ等ノ場合ニ於テモ、必要アラバ平常時ニ於テモ數量上ノ考慮ヲ拂フコトガ出來ルト考ヘテ居リマス

○横川委員 景氣ガ幸ニ好轉致シマシテ、外國ノ需要モ起リ、隨テ掃立希望ノ數量ガ非常ニ増加致シマシテ——是ガ適當ニ豫見セラレマスル際ニハ問題ハナイノデアリマスルガ、偶、以テ蠶種ノ一般製造ガ完了致シマシタヤウナ際ニ、其機運ガハッキリ分ッテ參リマシテ、一般養蠶家ノ需要致シマス

際ニ於テ、蠶種ガ不足ヲ告ゲマシテ、非常ナ暴騰ヲ來スヤウナ虞モナキニ非ズト思フノデアリマス、左様ナ際ニハ何等カ價格制限ト云フヤウナコトヲ御考ヘニナッテ居リマセウカ

○井野政府委員 蠶種ヲ非常ニ要スル場合ニ於ケル價格制限ト云フ問題ニ付キマシテハ、大體此建方ハ、國ト致シマシテ府縣ノ請求ヲ俟ッテ、ソレノ原原種ヲ造ッテ行クノデアリマスカラ、隨テ急ニ其時ニ數量ガ不足スルト云フコトハ、實ハ想像シテ居ラナイノデアリマス、隨テソレニ對シテ價格ガ急ニ昂騰スルト云フコトモ考ヘテ居リマセヌ、只今御質問ノ點ハ普通蠶種ノ點ニ付キマシテ、サウ云フコトガ有リ得ルカト云フコトカト思ヒマスガ、サウ云フ場合ニ付キマシテ、非常ニソコニ不當ナルコトデモアリマスレバ、或ハ統制命令ガ出セルコトモアルカト考ヘテ居リマス

○横川委員 尙ホ一點伺ヒマス、民間ノ優良品種ノ審査ノ方針ニ付キマシテ——委員會ノ構成ニ付キマシテハ御示シノ材料ガゴザイマスガ、審査ノ方法ニ付キマシテ概略御伺シタイト思ヒマス、ソレハ其審査會ニ於キマシテ、實地ノ試験ヲモ行ッテ上ノ御審査ヲナサルノデアリマスカ、既ニ民間ニ

於テ優良品種トシテ相當ノ試験成績ヲ提示シ得ルモノニ對シマシテハ、更メテ試験ヲ行ハズモ優良ナリト斷定シ得ル仕組ニナッテ居リマスカ

○井野政府委員 蠶品種審査會ニ於キマシテ直接ニ研究等ハ致シマセヌガ、民間ニ於テ出來マシタ優良品種ニ付キマシテ、之ヲ蠶品種審査會トシテ採用スルカ否ヤト云フ爲ニハ、府縣ノ試験場等ニ於キマシテ一應試験ヲ致シマシテ、其成績ヲ參考ニ供シテ、審査會ノ決定ヲ俟チタイト考ヘテ居リマス

○横川委員 實地ノ試験ヲ致ス場合ニハ、恐ラク數年ヲ要スルト考ヘラレマス、其間、若シ現在マデ非常ナ優良品種トシテ實際ニ行ハレテ居リマスモノモ、三箇年乃至ハ四箇年ト云フ長イ期間ノ試験成績ヲ俟タナレバナラヌコトニナリマス、非常ナ影響ヲ全體ニ及ボスモノト考ヘマスガ、如何デアリマスカ

○井野政府委員 國ニ於キマシテ試験ヲ致ス際ニ於キマシテモ、全然新シイモノデゴザイマスレバ、或ハ御話ノ如ク三年ナリ、四年ナリ掛ル場合モゴザイマスガ、大體民間等ニ於キマシテ有名ニナッテ居ル品種等ニ付キマシテハ、其研究程度モ省略スル部分ガアリマスシ、又或ル場合ニ於キマシテ

ハ、沖繩、或ハ臺灣等へ參リマシテ、早ク其品種ヲ造ルコトモ出來マスカラ、ソレ等ノ點ヲ考ヘテ、サウ長ク國ニ於テ研究スルト云フ風ニハ考ヘテ居リマセヌ

○生田委員長 此際皆様ニ御諮リ致シマス、質問ハ大體終了シタト思ヒマスガ、此程度デ政府ニ對スル質問ハ打切りタイト思ヒマスガ如何デスカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○生田委員長 御異議ガナケレバ左様取計ヒマス、本日ハ是ニテ散會致シマス、次會ハ公報ヲ以テ御通知申シマス

午後四時二分散會

昭和九年三月一日印刷

昭和九年三月二日發行

衆議院事務局

印刷者 常磐印刷株式會社